

2月2日 差替版

大阪府後期高齢者医療広域連合様  
分析関連補足資料  
(R3年度事業)  
〈ver.2\_3年分比較〉



株式会社 データホライゾン

2021年12月16日

# I .分析資料の構成等

## 1. 納品物

- ① カラーで印刷製本した報告書（A3ファイル）・・・3セット
- ② カラーで印刷製本した分析結果概要（A4ファイル）・・・10セット
- ③ ①②のデータ（Excelの表・グラフ）を保存したDVD・・・1枚

## 2. リンク集

納品したExcelデータの一番目に「リンク集」を作成しています。  
仕様書に基づく分析内容・分析項目に対して、そのExcelファイル名・シート名とリンク先を一覧にしています。クリックすれば、該当のシートを開くことができます。

分析内容	分析項目	Excelファイル名	Excelシート名	Excelリンク
集計定義	集計定義	■集計定義.xlsx	集計定義	<a href="#">■集計定義.xlsx#集計定義A1</a>
	地図		地図	<a href="#">■集計定義.xlsx#地図A1</a>
1.基礎統計	被保険者数	被保険者数 広域連合全体	被保険者数	<a href="#">1.基礎統計.xlsx#被保険者数A1</a>
		被保険者数 地区別	地区別_被保険者数	<a href="#">1.基礎統計.xlsx#地区別_被保険者数A1</a>
		被保険者数 市区町村別	市区町村別	<a href="#">1.基礎統計.xlsx#市区町村別_被保険者数A1</a>
		被保険者数 市区町村別 MAP	被保険者数MAP	<a href="#">1.基礎統計.xlsx#市区町村別_被保険者数MAPA1</a>
	介護保険の状況 広域連合全体	介護保険の状況	<a href="#">1.基礎統計.xlsx#介護認定率A1</a>	
	介護保険の状況 地区別	地区別_介護認定率	<a href="#">1.基礎統計.xlsx#地区別_介護認定率A1</a>	
				<a href="#">1.基礎統計.xlsx#市区町村別_介護認定率A1</a>
				<a href="#">1.基礎統計.xlsx#市区町村別_介護認定率A1</a>
				<a href="#">1.基礎統計.xlsx#介護疾病別有病状況A1</a>
				<a href="#">1.基礎統計.xlsx#介護疾病別有病状況A1</a>

クリックすると、そのシートが開けます。

The screenshot shows a table with columns for age groups (e.g., 0歳～6歳, 7歳～14歳), gender (男性, 女性), and total (合計). It also includes a horizontal bar chart titled '構成割合 (%)' comparing male and female ratios across various categories.

# I .分析資料の構成等

## 3. 集計定義

納品したExcelデータの2番目に「集計定義」を作成しています。

仕様書に基づく分析内容・分析項目に対して、それぞれの集計の仕方をまとめています。

**令和2年度**のレセプトデータ（医科・DPC・歯科・調剤）、健診データ、被保険者マスタ、KDBデータで集計しています。

### 【集計定義】

#### 1. 基礎統計

##### (1) 被保険者数

資格確認日…令和3年3月31日時点。  
年齢基準日…令和3年3月31日時点。

##### (2) 介護保険の状況

出典…令和2年度 国保データベースシステム (KDB) 「地域の全体像の把握」  
※KDBデータが欠損している地区、市区町村は「-」と表示している。

##### (3) 標準化死亡率

出典…令和2年度 国保データベースシステム (KDB) 「地域の全体像の把握」

##### (4) 主たる死因の状況

出典…令和2年度 国保データベースシステム (KDB) 「地域の全体像の把握」

##### (5) 長期入院患者数

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)の電子レセプト。対象診療年月は令和2年4月～資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。  
年齢基準日…令和3年3月31日時点。  
長期入院…レセプトに記載されている入院年月日から求めた入院月数が6か月以上のもの。  
長期入院患者の年齢基準日…令和3年3月31日時点。  
長期入院患者の入院時年齢基準日…入院時の年齢(入院した時点の日)。

#### 2. 医療費情報分析

2-1から2-18を通して、資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。の場合は、被保険者数・患者数…分析期間内で異動が発生した場合、地区・市区町村毎の広域連合全体の被保険者数・患者数を集計。そのため、地区・市区町村患者数は一致しない。

##### 2-1. 医療費の状況

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象診療年月資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。  
年齢基準日…令和3年3月31日時点。

##### 2-2. 高額レセプトの件数及び医療費

###### (1) 高額レセプトの件数及び割合

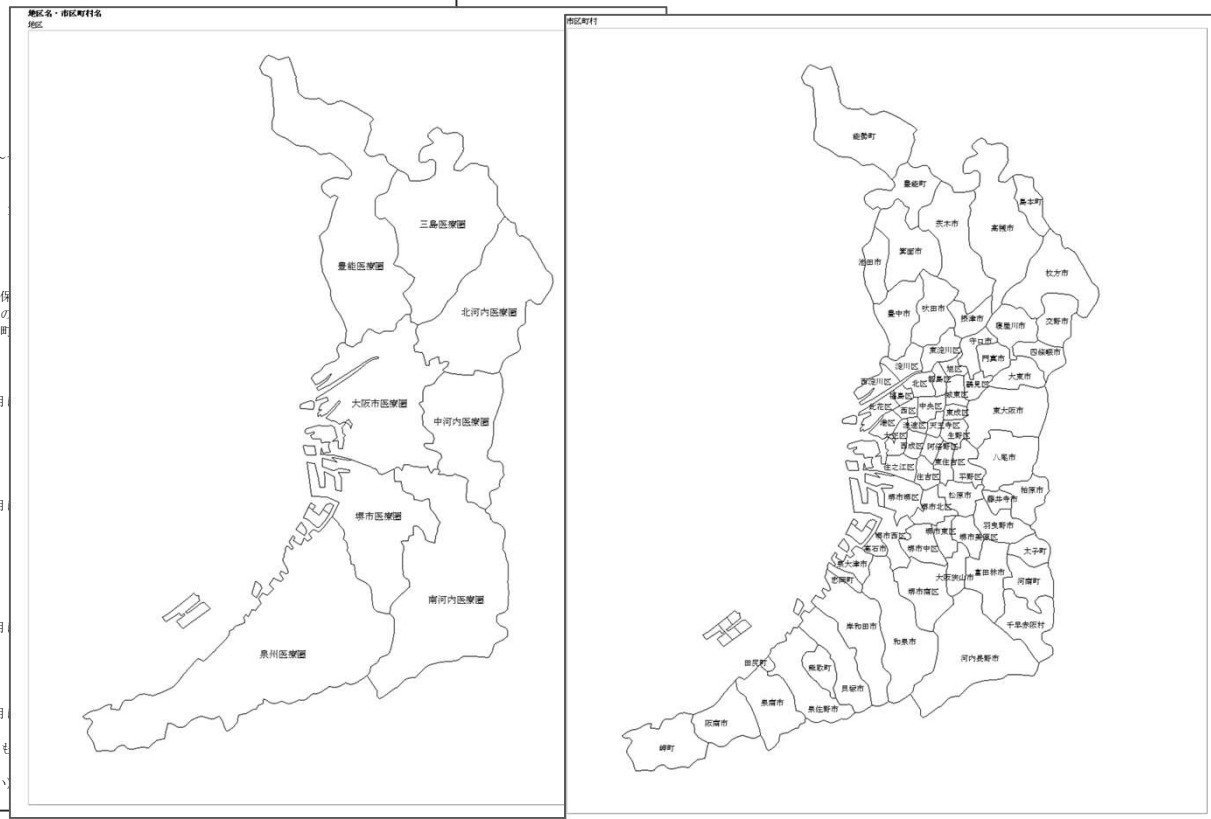
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象診療年月資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。  
医療費全体…データ化範囲(分析対象)全体での医療費。  
高額レセプトの医療費…高額(5万円以上)レセプトの医療費。  
その他レセプトの医療費…高額(5万円以上)レセプト以外の医療費。

###### (2) 高額レセプトの年齢階層別統計

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象診療年月資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。  
年齢基準日…令和3年3月31日時点。

###### (3) 高額レセプト発生患者の疾病傾向

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象診療年月資格確認日…1日でも資格があれば分析対象とする。  
主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計。  
医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費)。



# I.分析資料の構成等

## 4. 構成

分析の構成は、分析項目ごとに、

- ①大阪府後期高齢者医療広域連合全体
- ②8医療圏
- ③市区町村別【一部市町村別（区なし）】に集計して作成しています。

広域連合全体

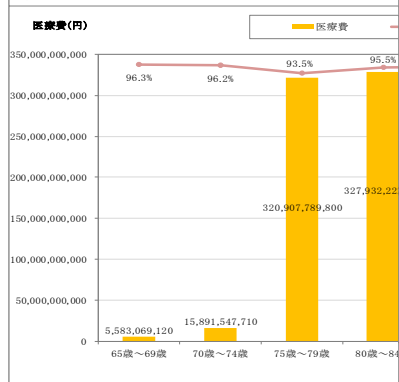
8医療圏と合計

市区町村と合計  
※大阪市と堺市の合計あり

年齢階層	被保険者数(人)	レセプト件数(件)				医療費(円)	患者数(人)	C/A	C/B	C/D	B/A	D/A
		入院外	入院	調剤	合計							
		レセプト件数(件)	レセプト件数(件)	レセプト件数(件)	レセプト件数(件)							
65歳～69歳	3,123	42,465	4,085	28,696	75,246	1,365						
70歳～74歳	8,327	124,511	11,244	82,630	218,385	18,991						
75歳～79歳	473,655	6,661,856	214,740	4,149,676	11,026,272	326,997						
80歳～84歳	378,672	6,110,672	249,668	3,910,632	10,270,972	27,333						
85歳～89歳	246,230	3,825,221	227,058	2,557,539	6,609,818	166,079						
90歳～94歳	113,179	1,505,257	130,152	1,068,180	2,703,589	322,021						
95歳～	41,727	440,148	53,459	334,996	828,603	43,971						
合計	1,264,913	18,710,130	890,406	12,132,349	31,732,885	1,000,000						

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象資格補償日…1日でも資格があれば分析対象としている。  
年齢基準日…令和3年3月31日時点。

医療費の状況  
広域連合全体



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。対象資格補償日…1日でも資格があれば分析対象としている。  
年齢基準日…令和3年3月31日時点。

地区	被保険者数(人)	レセプト件数(件)				医療費(円)	患者数(人)	C/A	C/B	C/D	B/A	D/A
		入院外	入院	調剤	合計							
		レセプト件数(件)	レセプト件数(件)	レセプト件数(件)	レセプト件数(件)							
1 豊後医療圏	146,880	2,347,918	101,284	1,511,549	3,960,651	126,886,446	120,549	834,803	30,847	384,888	84.55	
2 三島医療圏	109,313	1,431,648	83,128	1,142,822	2,657,753	103,747	385,148	104,320	328,911			
3 北河内医療圏	124,609	2,487,569	121,238	1,888,787	4,527,684	166,736,936	164,320	827,519	30,847	384,888	84.55	
4 中河内医療圏	125,135	1,986,760	84,101	1,281,686	3,241,487	116,846,969	115,918	573,519	30,847	384,888	84.55	
5 南河内医療圏	100,799	1,450,885	74,897	959,970	2,505,642	85,868,997	85,868	328,112	30,847	384,888	84.55	
6 堺市医療圏	125,950	1,891,431	100,079	1,199,978	3,191,452	116,987,446	116,745	573,519	30,847	384,888	84.55	
7 堺市医療圏	125,950	1,891,431	100,079	1,199,978	3,191,452	116,987,446	116,745	573,519	30,847	384,888	84.55	
8 大阪府医療圏	326,409	5,481,837	274,238	3,578,547	9,334,724	387,886,446	381,527	914,091	30,847	384,888	84.55	
広域連合全体	1,264,913	18,710,130	890,406	12,132,349	31,732,885	1,000,000						

市区町村別	被保険者数(人)	レセプト件数(件)				医療費(円)	患者数(人)	C/A	C/B	C/D	B/A	D/A
		入院外	入院	調剤	合計							
		レセプト件数(件)	レセプト件数(件)	レセプト件数(件)	レセプト件数(件)							
1 大阪市	305,409	5,881,877	281,411	4,000,000	10,163,288	416,886,446	416,886	1,041,886	30,847	384,888	84.55	
2 福島区	3,438	122,384			125,822	4,886,446	4,886	12,384				
3 大正区	2,518	150,453			152,971	5,881,877	5,881	15,453				
4 東淀川区	15,149	179,222			194,371	7,881,877	7,881	19,222				
5 天王寺区	5,682	129,311			134,993	5,881,877	5,881	129,311				
6 西淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
7 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
8 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
9 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
10 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
11 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
12 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
13 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
14 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
15 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
16 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
17 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
18 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
19 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
20 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
21 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
22 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
23 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
24 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
25 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
26 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
27 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
28 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
29 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
30 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
31 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
32 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
33 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
34 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
35 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
36 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
37 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
38 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
39 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
40 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
41 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
42 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
43 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
44 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
45 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
46 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
47 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
48 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
49 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
50 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
51 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
52 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
53 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
54 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
55 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
56 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
57 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
58 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
59 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
60 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
61 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
62 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
63 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
64 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
65 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
66 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
67 東淀川区	12,222	180,000			192,222	6,881,877	6,881	180,000				
68 東淀川区	12,222	180,000			192,222							



## Ⅱ.課題把握

### 1. 大阪府後期高齢者医療広域連合の課題

分析結果を踏まえた課題と提言をまとめました。

#### 1. 基礎統計【2年分比較】

- ① 介護認定率  
介護認定率は21.9%である（前年度21.4%）。地区別で最も高いのは堺市医療圏で25.1%（前年度も堺市医療圏で24.6%）、最も低いのは三島医療圏で18.9%（前年度も三島医療圏で18.4%）である。
- ② 標準化死亡比  
標準化死亡比は男性が106.2、女性が104.5である（前年度同値）。地区別で最も高いのは男女ともに大阪市医療圏で男性は120.2、女性は110.3である（前年度同値）。最も低いのは男女ともに豊能医療圏で男性は90.4、女性は95.4である（前年度同値）。

令和2年度

地区	介護認定率	介護認定者の疾病別有病状況（%）								標準化死亡比	
		糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	悪性新生物	筋・骨格	精神	男性	女性
豊能医療圏	↗21.4%	24.1%	52.5%	33.9%	60.3%	22.4%	13.0%	54.9%	36.3%	90.4	95.4
三島医療圏	↗18.9%	24.5%	51.2%	32.7%	58.7%	24.3%	13.3%	53.4%	37.1%	93.6	97.1
北河内医療圏	↗20.5%	19.7%	41.6%	26.5%	47.7%	18.6%	10.6%	43.6%	28.6%	101.3	104.1
中河内医療圏	↗23.7%	17.4%	35.7%	22.4%	40.6%	15.8%	9.2%	38.2%	22.6%	106.5	105.9
南河内医療圏	↗21.4%	21.7%	48.3%	30.4%	54.8%	20.4%	12.2%	49.9%	31.4%	98.6	99.2
堺市医療圏	↗25.1%	23.0%	51.6%	33.3%	58.2%	22.1%	12.7%	55.7%	33.0%	104.7	103.5
泉州医療圏	↗21.8%	20.8%	47.2%	28.5%	53.6%	20.2%	11.2%	49.2%	29.9%	107.7	108.3
大阪市医療圏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120.2	110.3
広域連合全体	↗21.9%	21.4%	46.6%	29.5%	53.1%	20.3%	11.6%	49.0%	31.0%	106.2	104.5

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

※標準化死亡比は前年度と同じ

令和元年度

地区	介護認定率	介護認定者の疾病別有病状況 (%)								標準化死亡率	
		糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	悪性新生物	筋・骨格	精神	男性	女性
豊能医療圏	20.8%	17.0%	36.6%	23.9%	42.2%	16.2%	9.3%	38.5%	25.1%	90.4	95.4
三島医療圏	18.4%	23.3%	48.2%	30.9%	55.4%	23.9%	12.6%	50.7%	34.7%	93.6	97.1
北河内医療圏	20.1%	8.0%	16.0%	10.5%	18.2%	7.4%	4.3%	17.0%	10.8%	101.3	104.1
中河内医療圏	23.2%	4.8%	9.3%	6.0%	10.7%	4.6%	2.4%	9.9%	6.0%	106.5	105.9
南河内医療圏	21.2%	10.2%	21.7%	14.1%	24.8%	9.7%	5.8%	22.7%	13.9%	98.6	99.2
堺市医療圏	24.6%	7.7%	16.3%	10.7%	18.4%	7.5%	4.2%	17.7%	10.5%	104.7	103.5
泉州医療圏	21.3%	6.5%	13.4%	8.6%	15.3%	6.4%	3.5%	14.0%	8.4%	107.7	108.3
大阪市医療圏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120.2	110.3
広域連合全体	21.4%	10.6%	22.1%	14.3%	25.3%	10.3%	5.7%	23.3%	14.9%	106.2	104.5

修正ページ

※参考 平成30年度

地区	介護認定率	介護認定者の疾病別有病状況 (%)								標準化死亡率	
		糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	悪性新生物	筋・骨格	精神	男性	女性
豊能医療圏	20.2%	2.7%	4.4%	3.2%	5.1%	2.7%	1.4%	4.8%	3.2%	90.4	95.4
三島医療圏	17.6%	9.1%	17.6%	11.4%	20.4%	9.4%	4.6%	18.6%	12.7%	93.6	97.1
北河内医療圏	19.5%	3.1%	5.2%	3.7%	5.9%	2.9%	1.7%	5.6%	3.5%	101.3	104.1
中河内医療圏	22.6%	2.1%	3.3%	2.3%	3.8%	2.0%	1.0%	3.5%	2.2%	106.5	105.9
南河内医療圏	20.8%	6.3%	12.5%	8.3%	14.4%	6.0%	3.5%	13.3%	7.8%	98.6	99.2
堺市医療圏	24.0%	2.7%	4.6%	3.3%	5.2%	2.6%	1.5%	5.1%	3.1%	104.7	103.5
泉州医療圏	20.7%	3.4%	6.2%	4.1%	7.0%	3.3%	1.8%	6.5%	4.1%	107.7	108.3
大阪市医療圏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120.2	110.3
広域連合全体	20.9%	3.8%	6.8%	4.6%	7.8%	3.6%	2.0%	7.2%	4.6%	106.2	104.5

本ページはKDBデータのみを使用。介護については大阪市、守口市、忠岡町のデータが欠損。介護認定者の疾病有病状況については、令和元年度と令和2年度で値が違いすぎるため比較ができない。  
 データヘルス計画によると、介護認定率は、平成18年（17.9%）と平成28年度（20.7%）の対比では2.8ポイント増で平均すると年に0.28ポイント増えたが、その後の2年間では0.20ポイントであり、上昇はやや抑制されている（参考：上記KDBデータでは、令和元年度から令和2年度で0.5ポイント増えている）。介護認定者の疾病別有病状況では、いずれの医療圏においても心臓病の割合が多い。  
 なお、2025年に向けては団塊世代が後期高齢者に流入した際に数値が大きく跳ね上がる可能性がある。保健事業を実施できる環境の整備が急務である。

## Ⅱ.課題把握

### 2. 医科医療費の状況

- ① 被保険者一人当たり医療費  
被保険者一人当たりの医療費は858,077円である（前年度882,614円）。地区別で最も高いのは泉州医療圏で894,312円（前年度も泉州医療圏で917,936円）、最も低いのは南河内医療圏で800,550円（前年度は中河内医療圏で827,519円。前年度の南河内医療圏は829,118円）である。  
年齢調整後、地区別で最も高いのは泉州医療圏で861,176円（前年度は大阪市医療圏で899,122円。前年度の泉州医療圏は886,330円）、最も低いのは北河内医療圏で846,363円（前年度も北河内医療圏で869,068円）である。
- ② レセプト一件当たりの医療費  
レセプト一件当たりの医療費は34,204円である（前年度33,813円）。地区別で最も高いのは泉州医療圏で37,960円（前年度も泉州医療圏で37,241円）、最も低いのは豊能医療圏で31,452円（前年度も豊能医療圏で30,947円）である。
- ③ 患者一人当たりの医療費  
患者一人当たりの医療費は908,100円である（前年度927,306円）。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で963,914円（前年度も大阪市医療圏で989,046円）、最も低いのは南河内医療圏で851,548円（前年度は中河内医療圏で872,999円。前年度の南河内医療圏は873,492円）である。
- ④ 被保険者一人当たりのレセプト件数  
被保険者一人当たりのレセプト件数は25.1件（前年度26.1件）である。地区別で最も多いのは豊能医療圏で25.9件（前年度も豊能医療圏で27.0件）、最も少ないのは堺市医療圏と泉州医療圏で23.6件（前年度も堺市医療圏と泉州医療圏で24.6件）である。
- ⑤ 患者割合  
患者割合は94.5%（前年度95.2%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で94.3%（前年度も泉州医療圏で95.0%）、最も低いのは大阪市医療圏で91.5%（前年度も大阪市医療圏で92.4%）である。

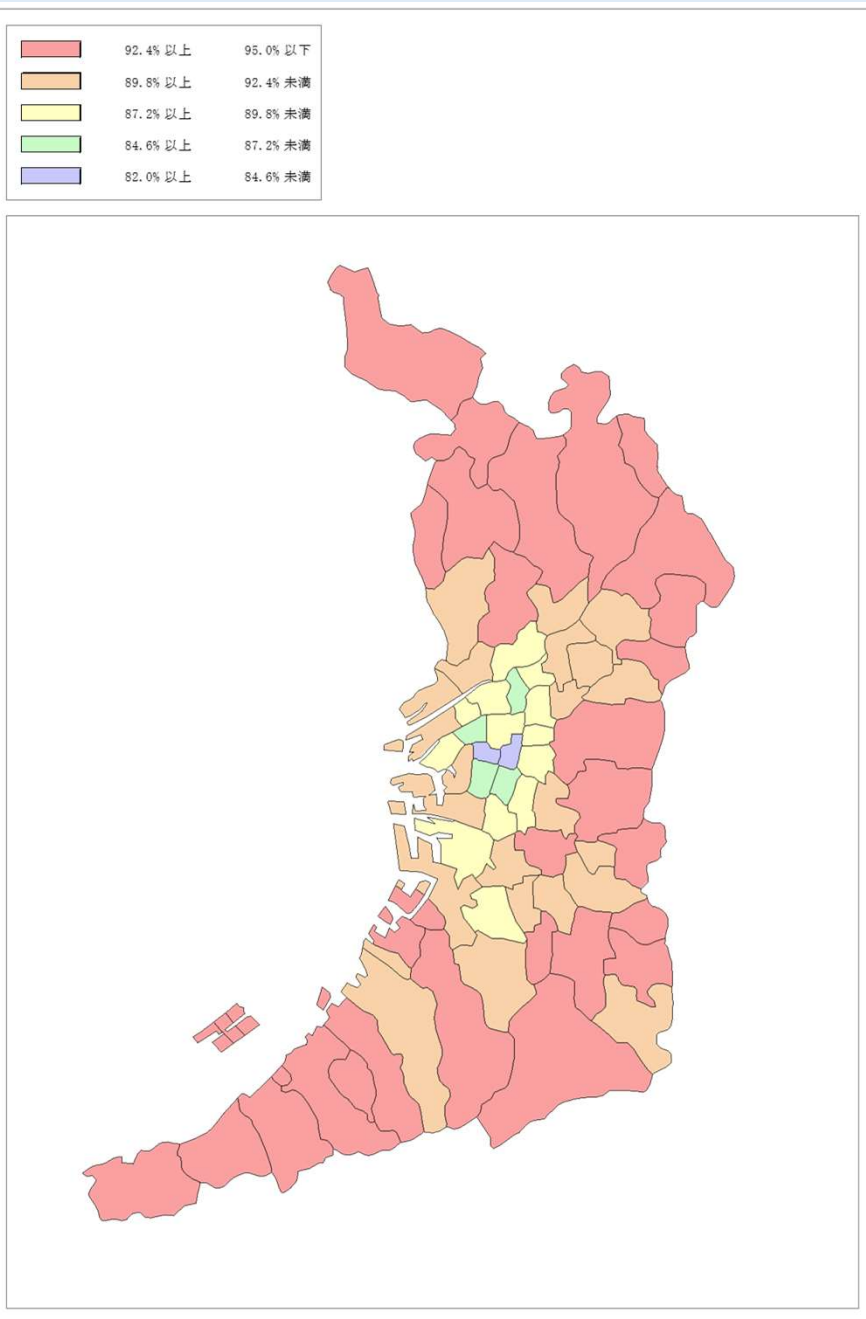
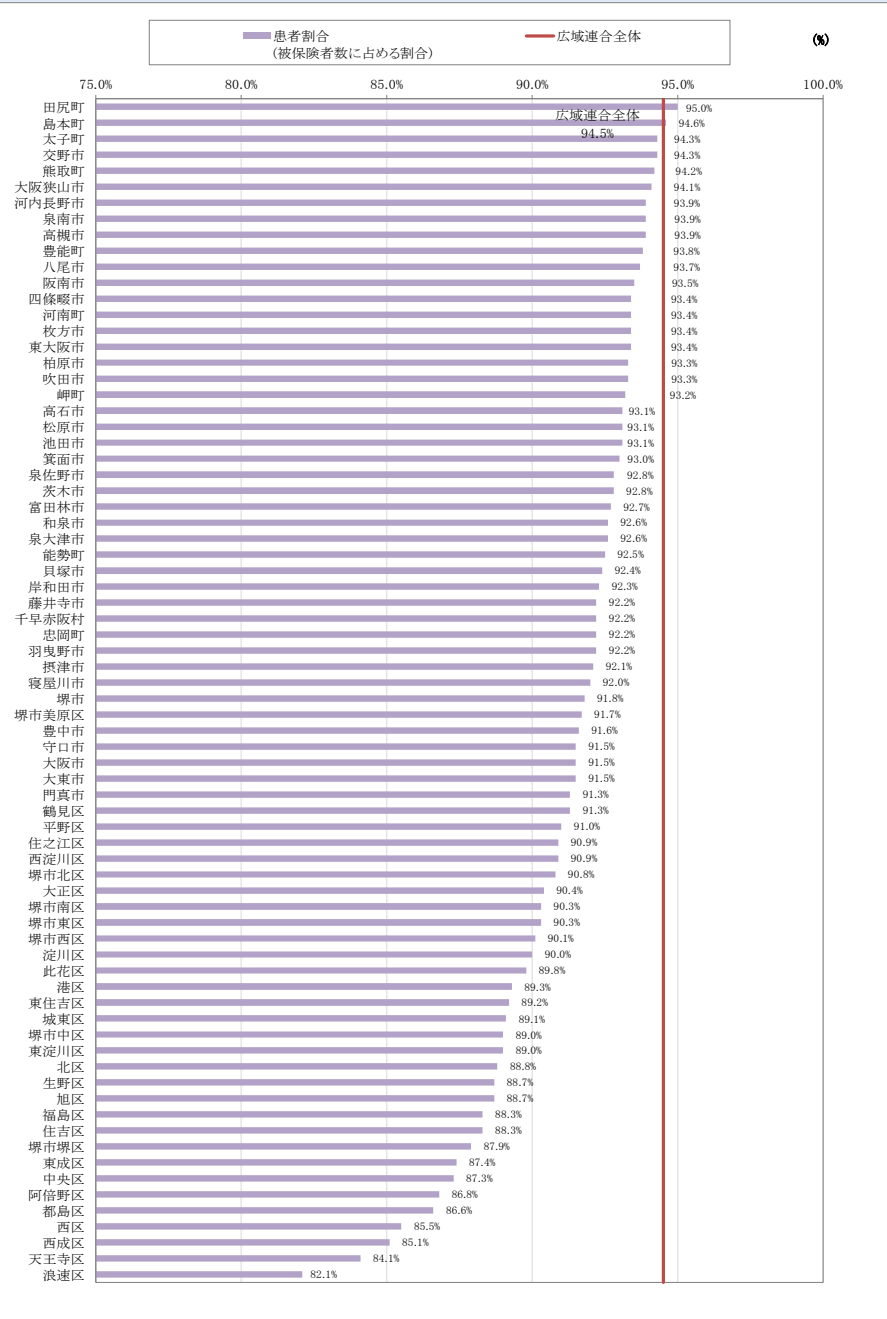


年齢調整前後の被保険者一人当たりの医科医療費 【平成30年度】			年齢調整前後の被保険者一人当たりの医科医療費 【令和元年度】			年齢調整前後の被保険者一人当たりの医科医療費 【令和2年度】		
地区	調整前	調整後	地区	調整前	調整後	地区	調整前	調整後
泉州医療圏	894,538	867,567	泉州医療圏	917,936	886,330	泉州医療圏	↘894,312	↘861,176
大阪市医療圏	894,214	878,425	大阪市医療圏	914,091	899,122	大阪市医療圏	↘881,588	↘873,298
堺市医療圏	860,121	864,039	堺市医療圏	873,822	884,700	堺市医療圏	↘851,838	↘860,756
三島医療圏	855,085	852,929	三島医療圏	868,146	873,345	三島医療圏	↘837,142	↘849,598
豊能医療圏	822,732	861,685	豊能医療圏	834,603	882,260	豊能医療圏	↘813,535	↘857,258
南河内医療圏	810,033	859,839	南河内医療圏	829,118	880,148	南河内医療圏	↘800,550	↘855,679
中河内医療圏	803,926	848,448	中河内医療圏	827,519	870,703	中河内医療圏	↘811,163	↘848,444
北河内医療圏	798,000	847,855	北河内医療圏	828,911	869,068	北河内医療圏	↘807,616	↘846,363
広域連合全体	862,125	862,125	広域連合全体	882,614	882,614	広域連合全体	↘858,077	↘858,077

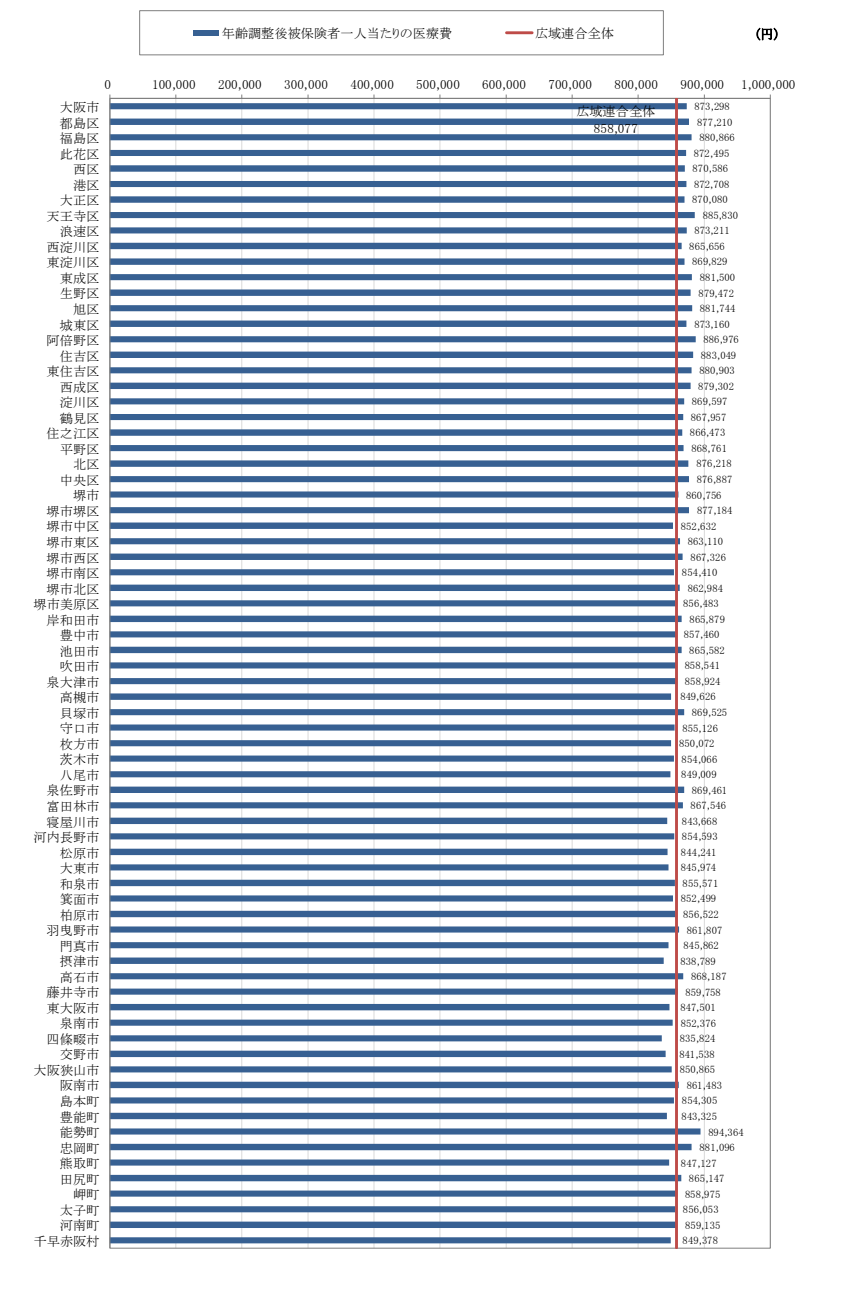
※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

広域連合全体で被保険者一人当たりの医療費の3年間の推移を見てみると、平成30年度の862,125円から令和元年度882,614円となっている（20,489円増）が、令和2年度で858,077円（24,537円減）となっている。これは、新型コロナウイルス感染症の流行による受診控えが影響していると言えるだろうか。

# 市町村別概要\_医療費の状況 (患者割合)



市町村別概要\_医療費の状況（年齢調整後被保険者一人当たりの医療費）



## Ⅱ.課題把握

### 3. 高額レセプトの件数及び医療費

- ① 高額レセプト件数割合 (%)  
 高額レセプト件数割合は1.57% (前年度1.52%) である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で1.82% (前年度も泉州医療圏で1.73%)、最も低いのは中河内医療圏で1.43% (前年度も中河内医療圏で1.36%) である。
- ② 高額レセプト医療費割合 (%)  
 高額レセプト医療費割合は43.0% (前年度41.3%) である。地区別で最も高いのは堺市医療圏で44.2% (前年度も堺市医療圏で42.3%)、最も低いのは南河内医療圏で41.4% (前年度は中河内医療圏で39.4%。前年度の南河内医療圏は40.3%) である。

③ 高額レセプト発生患者の疾病傾向

患者一人当たりの医療費順

順位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	腎不全	その他の外耳疾患	くも膜下出血
2位	くも膜下出血	知的障害<精神遅滞>	知的障害<精神遅滞>
3位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	腎不全	腎不全
4位	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	くも膜下出血	白血病
5位	脳動脈硬化 (症)	白血病	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群

患者数順			
順位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	骨折	骨折	骨折
2位	その他の心疾患	その他の心疾患	その他の心疾患
3位	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の悪性新生物<腫瘍>
4位	その他の呼吸器系の疾患	脳梗塞	その他の呼吸器系の疾患
5位	脳梗塞	その他の呼吸器系の疾患	脳梗塞

高額レセプト割合【平成30年度】			
順位	地区	総レセプト 件数に占める割合	総医療費に 占める割合
1位	堺市医療圏	1.69%	41.7%
2位	泉州医療圏	1.65%	40.6%
3位	三島医療圏	1.52%	41.7%
4位	大阪市医療圏	1.49%	40.1%
5位	南河内医療圏	1.43%	39.2%
6位	北河内医療圏	1.41%	39.8%
7位	豊能医療圏	1.37%	40.9%
8位	中河内医療圏	1.31%	38.2%
	広域連合全体	1.48%	40.3%

高額レセプト割合【令和元年度】				高額レセプト割合【令和2年度】			
順位	地区	総レセプト 件数に占める割合	総医療費に 占める割合	順位	地区	総レセプト 件数に占める割合	総医療費に 占める割合
1位	泉州医療圏	1.73%	41.9%	1位	泉州医療圏	↗1.82%	↗43.9%
2位	堺市医療圏	1.69%	42.3%	2位	堺市医療圏	↗1.76%	↗44.2%
3位	大阪市医療圏	1.53%	41.1%	3位	大阪市医療圏	↗1.57%	↗42.8%
4位	三島医療圏	1.52%	42.1%	4位	三島医療圏	↗1.56%	↗43.6%
5位	北河内医療圏	1.48%	41.3%	5位	北河内医療圏	↗1.53%	↗42.9%
6位	南河内医療圏	1.47%	40.3%	6位	南河内医療圏	↗1.50%	↗41.4%
7位	豊能医療圏	1.40%	41.9%	7位	豊能医療圏	↗1.44%	↗43.6%
8位	中河内医療圏	1.36%	39.4%	8位	中河内医療圏	↗1.43%	↗41.9%
	広域連合全体	1.52%	41.3%		広域連合全体	↗1.57%	↗43.0%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

## Ⅱ.課題把握

### 4. 疾病別医療費統計 大分類・中分類

#### 患者数の多い疾病【大分類】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	循環器系の疾患	循環器系の疾患	循環器系の疾患
2位	消化器系の疾患	消化器系の疾患	消化器系の疾患
3位	内分泌,栄養及び代謝疾患	内分泌,栄養及び代謝疾患	内分泌,栄養及び代謝疾患

#### 患者数の多い疾病【中分類】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	高血圧性疾患	高血圧性疾患	高血圧性疾患
2位	その他の消化器系の疾患	その他の消化器系の疾患	その他の消化器系の疾患
3位	糖尿病	糖尿病	糖尿病

### 5. 生活習慣病にかかる医療費等の状況

- ① 生活習慣病患者割合は83.4%（前年度83.8%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で83.4%（前年度も泉州医療圏で83.9%）、最も低いのは堺市医療圏で80.3%（前年度も堺市医療圏で80.5%）である。
- ② 患者一人当たりの生活習慣病医療費  
患者一人当たりの生活習慣病医療費は213,192円（前年度219,667円）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で227,184円（前年度も大阪市医療圏で236,314円）、最も低いのは南河内医療圏で196,294円（前年度は中河内医療圏で204,581円。前年度の南河内医療圏は204,581円）である。

被保険者に占める割合が多い疾病順

順位	平成30年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	高血圧性疾患	65.4%	65.7%	↗ 66.0%
2位	糖尿病	48.5%	49.6%	↗ 50.1%
3位	脂質異常症	42.4%	42.9%	↗ 43.3%
4位	虚血性心疾患	26.4%	26.2%	↘ 25.3%
5位	脳梗塞	21.5%	21.1%	↘ 19.9%
6位	動脈硬化（症）	14.0%	13.7%	↘ 12.8%
7位	腎不全	8.6%	8.9%	↗ 9.0%
8位	脳内出血	3.6%	3.6%	↘ 3.3%
9位	くも膜下出血	0.4%	0.4%	→ 0.4%
10位	脳動脈硬化（症）	0.4%	0.4%	→ 0.4%

※順位の変動なし

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

## II.課題把握

生活習慣病患者割合（被保険者数に占める割合）						
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	泉州医療圏	83.78%	泉州医療圏	83.91%	泉州医療圏	↘ 83.42%
2位	中河内医療圏	83.33%	中河内医療圏	83.50%	中河内医療圏	↘ 82.94%
3位	南河内医療圏	83.17%	北河内医療圏	83.14%	北河内医療圏	↘ 82.59%
4位	北河内医療圏	82.70%	南河内医療圏	83.00%	南河内医療圏	↘ 82.58%
5位	大阪市医療圏	82.69%	三島医療圏	82.65%	三島医療圏	↘ 82.33%
6位	三島医療圏	82.33%	大阪市医療圏	82.61%	大阪市医療圏	↘ 81.86%
7位	豊能医療圏	81.39%	豊能医療圏	81.55%	豊能医療圏	↘ 81.26%
8位	堺市医療圏	80.13%	堺市医療圏	80.50%	堺市医療圏	↘ 80.25%
	広域連合全体	83.58%	広域連合全体	83.76%	広域連合全体	↘ 83.40%

※値の左側の矢印は、  
前年度と比較しての増減を表す



生活習慣病患者一人当たりの生活習慣病医療費

順位	地域	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	235,800	大阪市医療圏	236,314	大阪市医療圏	↘227,184
2位	堺市医療圏	230,982	堺市医療圏	226,480	堺市医療圏	↘220,582
3位	泉州医療圏	223,379	泉州医療圏	222,431	泉州医療圏	↘217,560
4位	北河内医療圏	212,247	北河内医療圏	213,237	北河内医療圏	↘208,727
5位	三島医療圏	210,704	豊能医療圏	209,288	中河内医療圏	↘205,632
6位	豊能医療圏	208,217	三島医療圏	207,564	豊能医療圏	↘203,862
7位	南河内医療圏	203,979	中河内医療圏	206,346	三島医療圏	↘198,415
8位	中河内医療圏	203,175	南河内医療圏	204,581	南河内医療圏	↘196,294
	広域連合全体	219,782	広域連合全体	219,667	広域連合全体	↘213,192

※値の左側の矢印は、  
前年度と比較しての増減を表す

## Ⅱ.課題把握

年齢調整前後の被保険者 一人当たりの生活習慣病医療費 【平成30年度】			年齢調整前後の被保険者 一人当たりの生活習慣病医療費 【令和元年度】			年齢調整前後の被保険者 一人当たりの生活習慣病医療費 【令和2年度】		
地区	調整前	調整後	地区	調整前	調整後	地区	調整前	調整後
豊能医療圏	169,471	180,406	豊能医療圏	170,676	180,996	豊能医療圏	↘165,659	↘174,991
三島医療圏	173,468	181,054	三島医療圏	171,375	181,388	三島医療圏	↘163,347	↘175,366
北河内医療圏	175,523	181,695	北河内医療圏	177,292	182,022	北河内医療圏	↘172,388	↘176,175
中河内医療圏	169,326	179,129	中河内医療圏	172,315	180,125	中河内医療圏	↘170,550	↘174,634
南河内医療圏	169,643	182,641	南河内医療圏	169,804	183,005	南河内医療圏	↘162,091	↘176,876
堺市医療圏	185,082	186,135	堺市医療圏	182,324	186,210	堺市医療圏	↘177,018	↘179,923
泉州医療圏	187,137	186,745	泉州医療圏	186,645	186,429	泉州医療圏	↘181,488	↘180,067
大阪市医療圏	194,993	187,224	大阪市医療圏	195,242	187,453	大阪市医療圏	↘185,962	↘180,809
広域連合全体	183,699	183,699	広域連合全体	184,002	184,002	広域連合全体	↘177,800	↘177,800

※値の左側の矢印は、  
前年度と比較しての増減を表す

各分析において生活習慣病患者が多数存在し、医療費も多額である。  
その一方で健診受診率が低く、保健指導を必要とする対象者が見過ごされている可能性がある。  
健診受診勧奨と保健指導の実施が必要である。

広域連合全体で被保険者一人当たりの生活習慣病医療費の3年間の推移を見てみると、平成30年度の183,699円から令和元年度184,002円となっている（303円増）が、令和2年度で177,800円（6,202円減）となっている。これも、新型コロナウイルス感染症の流行による受診控えが影響していると言えるだろうか。

## Ⅱ.課題把握

### 6. 歯科医療費の状況

- |   |  |
|---|--|
| ① | <p>被保険者一人当たり歯科医療費<br/>被保険者一人当たりの歯科医療費は43,196円（前年度45,362円）である。地区別で最も高いのは中河内医療圏で44,622円（前年度は豊能医療圏で47,272円。前年度の中河内医療圏は46,808円）、最も低いのは泉州医療圏で38,144円（前年度も泉州医療圏で40,701円）である。<br/>年齢調整後、地区別で最も高いのは大阪市医療圏で43,355円（前年度も大阪市医療圏で45,586円）、最も低いのは北河内医療圏で43,093円（前年度も北河内医療圏で45,184円）である。</p> |
| ② | <p>レセプト一件当たりの歯科医療費<br/>レセプト一件当たりの歯科医療費は16,420円である（前年度15,672円）。<br/>地区別で最も高いのは泉州医療圏で16,953円（前年度も泉州医療圏で16,199円）、最も低いのは三島医療圏で15,480円（前年度も三島医療圏で14,739円）である。</p>   |
| ③ | <p>患者一人当たりの医療費<br/>患者一人当たりの医療費は79,086円である（前年度78,874円）。<br/>地区別で最も高いのは大阪市医療圏で84,927円（前年度も大阪市医療圏で85,060円）、最も低いのは三島医療圏で72,372円（前年度も三島医療圏で72,116円）である。</p>   |
| ④ | <p>被保険者一人当たりのレセプト件数<br/>被保険者一人当たりのレセプト件数は2.63件（前年度2.89件）である。<br/>地区別で最も多いのは豊能医療圏で2.84件（前年度も豊能医療圏で3.17件）、最も少ないのは泉州医療圏で2.25件（前年度も泉州医療圏で2.51件）である。</p>  |
| ⑤ | <p>患者割合<br/>患者割合は54.6%（前年度57.5%）である。<br/>地区別で最も高いのは豊能医療圏で58.4%（前年度も豊能医療圏で62.0%）、最も低いのは泉州医療圏で50.7%（前年度も泉州医療圏で53.7%）である。</p>   |

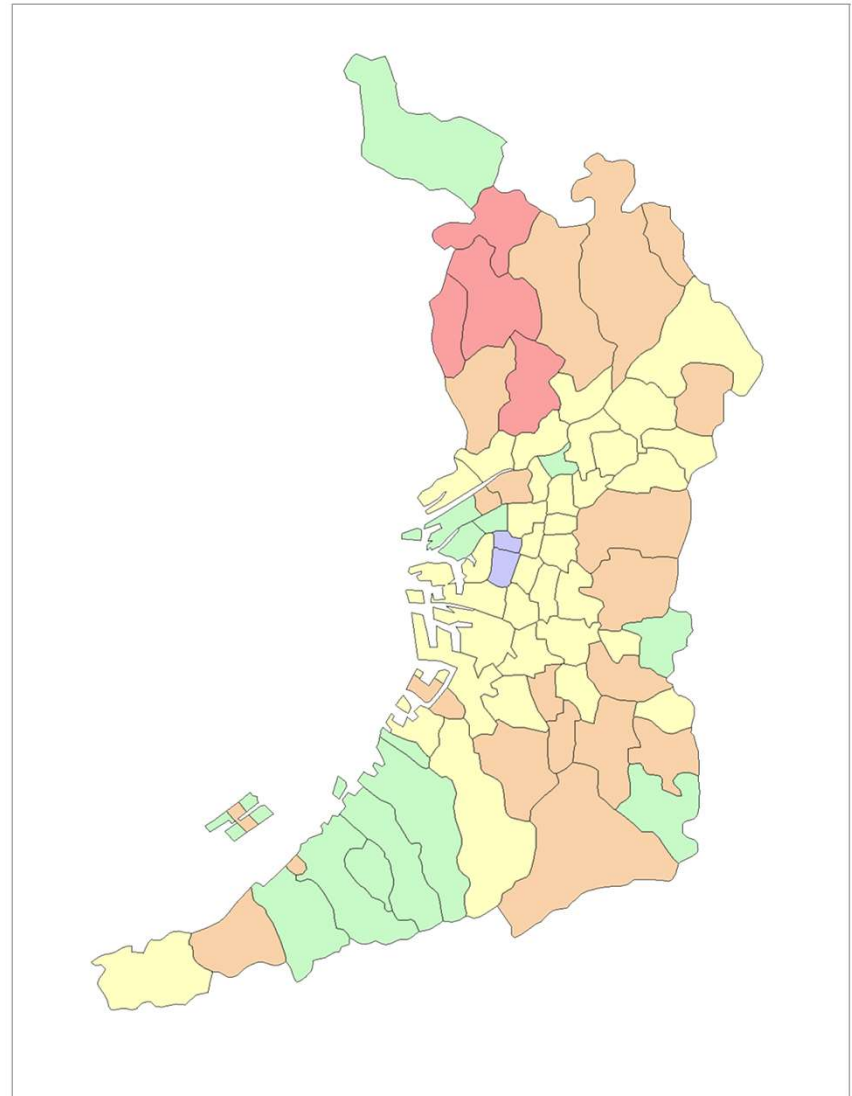
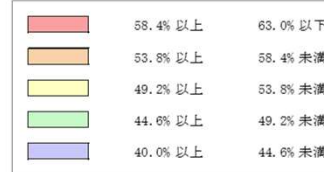
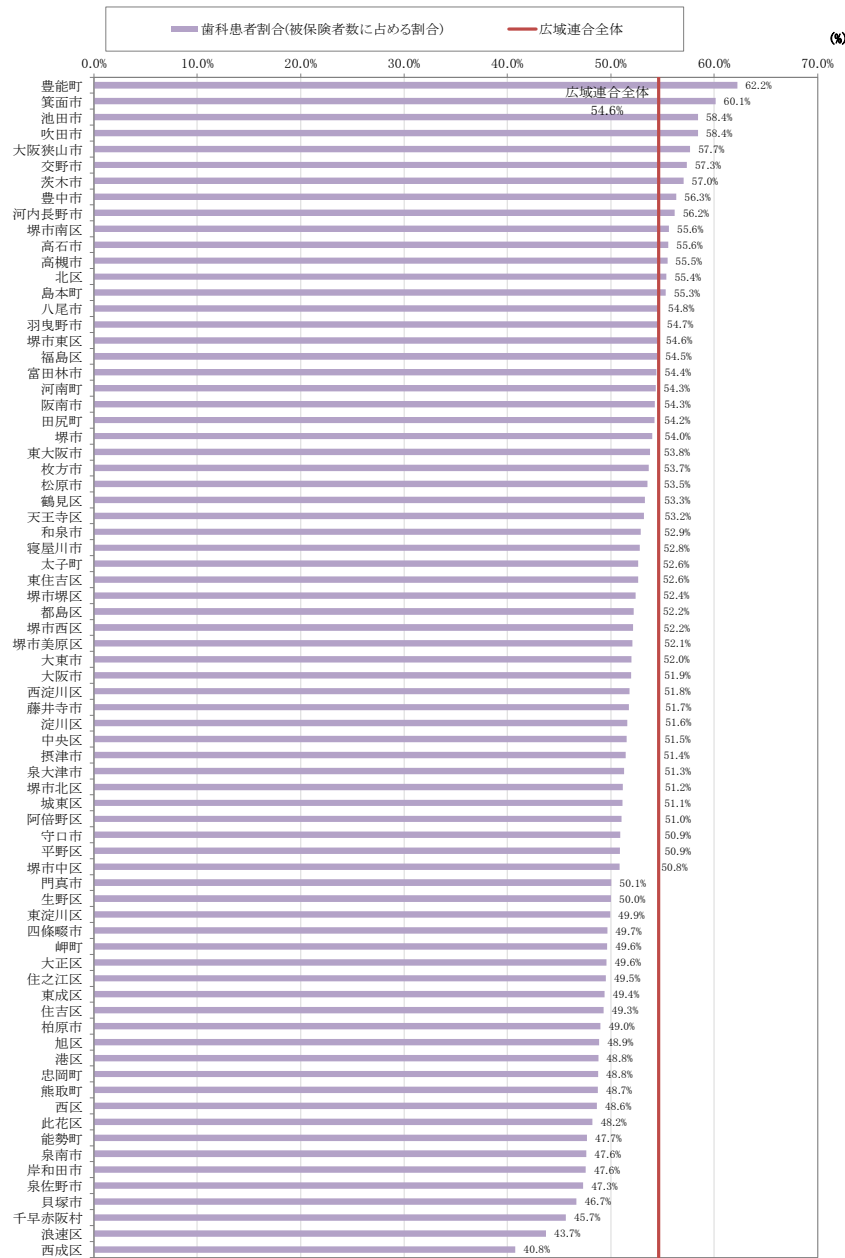
年齢調整前後の被保険者 一人当たりの歯科医療費 【平成30年度】		
地区	調整前	調整後
豊能医療圏	46,093	43,998
三島医療圏	40,987	43,827
北河内医療圏	40,561	43,750
中河内医療圏	44,865	43,805
南河内医療圏	42,776	43,919
堺市医療圏	44,672	43,950
泉州医療圏	39,665	43,998
大阪市医療圏	45,418	44,188
広域連合全体	44,118	44,118

年齢調整前後の被保険者 一人当たりの歯科医療費 【令和元年度】			年齢調整前後の被保険者 一人当たりの歯科医療費 【令和2年度】		
地区	調整前	調整後	地区	調整前	調整後
豊能医療圏	47,272	45,399	豊能医療圏	↘44,600	↘43,194
三島医療圏	42,434	45,254	三島医療圏	↘40,502	↘43,109
北河内医療圏	41,326	45,184	北河内医療圏	↘39,246	↘43,093
中河内医療圏	46,808	45,239	中河内医療圏	↘44,622	↘43,125
南河内医療圏	44,053	45,334	南河内医療圏	↘42,392	↘43,174
堺市医療圏	45,911	45,370	堺市医療圏	↘44,406	↘43,223
泉州医療圏	40,701	45,389	泉州医療圏	↘38,144	↘43,221
大阪市医療圏	46,558	45,586	大阪市医療圏	↘44,114	↘43,355
広域連合全体	45,362	45,362	広域連合全体	↘43,196	↘43,196

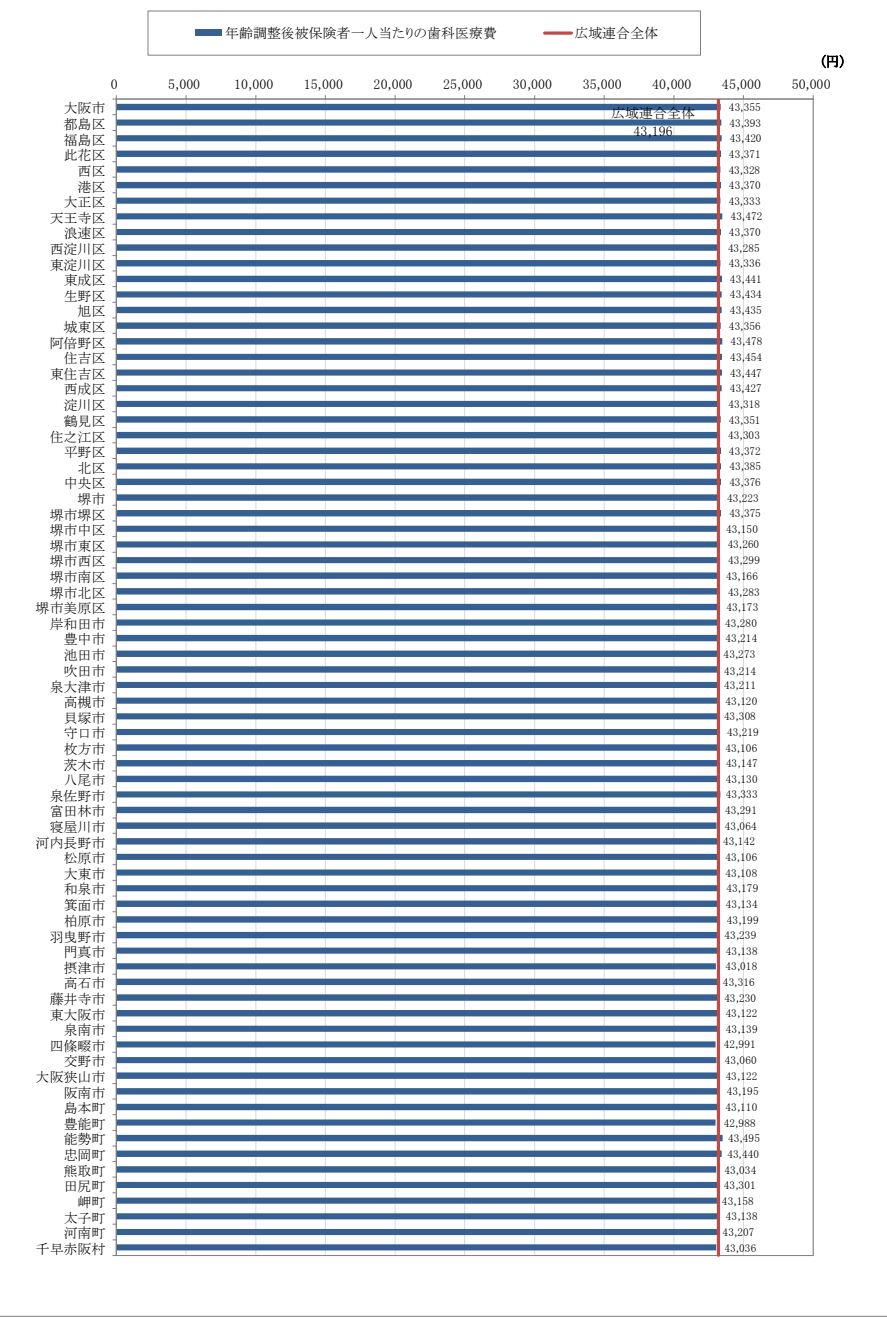
※値の左側の矢印は、  
前年度と比較しての増減を表す

歯科医療費が平成30年度から令和元年度は増加しているが、令和元年度から令和2年度では減少している。  
これは、新型コロナウイルスの影響で、医者の前で口を開くことは新型コロナウイルスの感染リスクがあると考え、  
歯科の受診控えによるものであると言えるだろうか。

市町村別概要\_歯科医療費の状況（歯科患者割合）



市町村別概要 歯科医療費の状況（年齢調整後被保険者一人当たりの歯科医療費）



## Ⅱ.課題把握

## 中分類による疾病別歯科医療費

## 患者割合順

順位	平成30年度	割合	令和元年度	割合	令和2年度	割合
1位	歯肉炎及び歯周疾患	49.5%	歯肉炎及び歯周疾患	50.5%	歯肉炎及び歯周疾患	48.1%
2位	その他の歯及び歯の支持組織の障害	35.0%	その他の歯及び歯の支持組織の障害	35.1%	その他の歯及び歯の支持組織の障害	32.6%
3位	その他の損傷及びその他の外因の影響	30.5%	その他の損傷及びその他の外因の影響	30.9%	その他の損傷及びその他の外因の影響	29.0%
4位	う蝕	27.6%	う蝕	28.1%	う蝕	26.3%
5位	その他の消化器系の疾患	13.1%	その他の消化器系の疾患	13.5%	その他の消化器系の疾患	12.7%



## 特定疾病別歯科医療費

特定疾病患者のうち歯科レセプトが発生している者の割合と一人当たり歯科医療費

順位	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	特定疾病	割合	1人当たり医療費	特定疾病	割合	1人当たり医療費	特定疾病	割合	1人当たり医療費
1位	気分障害	62.6%	88,567	気分障害	63.8%	89,051	気分障害	61.0%	88,343
2位	動脈硬化	62.2%	75,294	悪性新生物	63.5%	76,997	悪性新生物	60.6%	77,160
3位	悪性新生物	62.0%	76,209	動脈硬化	63.5%	75,814	動脈硬化	60.5%	76,174
4位	脂質異常症	60.2%	72,737	脂質異常症	61.3%	73,425	脂質異常症	58.3%	74,128
5位	脳血管疾患	59.6%	82,106	脳血管疾患	60.9%	82,544	脳血管疾患	58.1%	82,574
6位	虚血性心疾患	58.9%	77,990	虚血性心疾患	60.2%	78,758	虚血性心疾患	57.4%	79,132
7位	糖尿病	58.8%	76,436	糖尿病	60.1%	77,084	糖尿病	57.4%	77,458
8位	高血圧性疾患	57.7%	77,032	肺炎	59.1%	87,527	高血圧性疾患	56.2%	78,199
9位	肺炎	57.4%	86,568	高血圧性疾患	58.9%	77,876	肺炎	55.9%	85,796
10位	腎不全	53.9%	81,440	腎不全	55.3%	81,692	腎不全	53.0%	81,153

## Ⅱ.課題把握

### 7. 医科健診分析

- ① 医科健診受診率(令和2年度通年有資格者)  
医科健診受診率は19.0%（前年度20.6%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で27.4%（前年度も豊能医療圏で29.3%）、最も低いのは大阪市医療圏で11.9%（前年度も大阪市医療圏で13.1%）である。
- ② 健診異常値放置者割合  
健診異常値放置者割合は1.02%（前年度1.17%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で1.40%（前年度も豊能医療圏で1.59%）、最も低いのは大阪市医療圏で0.60%（前年度も大阪市医療圏で0.72%）である。
- ③ 治療中断者割合  
治療中断者割合は0.51%（前年度は0.58%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で0.56%（前年度は堺市医療圏で0.67%。大阪市医療圏の前年度は0.62%）、最も低いのは南河内医療圏で0.41%（前年度は三島医療圏で0.51%。南河内医療圏で0.53%）である。

医科健診受診率【令和2年度通年有資格者】

順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	豊能医療圏	31.1%	29.3%	↘27.4%
2位	南河内医療圏	27.1%	26.5%	↘25.9%
3位	三島医療圏	28.8%	28.2%	↘25.5%
4位	北河内医療圏	23.4%	22.5%	↘20.4%
5位	中河内医療圏	22.2%	21.2%	↘20.1%
6位	泉州医療圏	20.8%	20.5%	↘19.5%
7位	堺市医療圏	18.5%	17.5%	↗17.6%
8位	大阪市医療圏	13.7%	13.1%	↘11.9%
	広域連合全体	21.5%	20.6%	↘19.0%

※順位の変動なし

健診異常値放置者割合

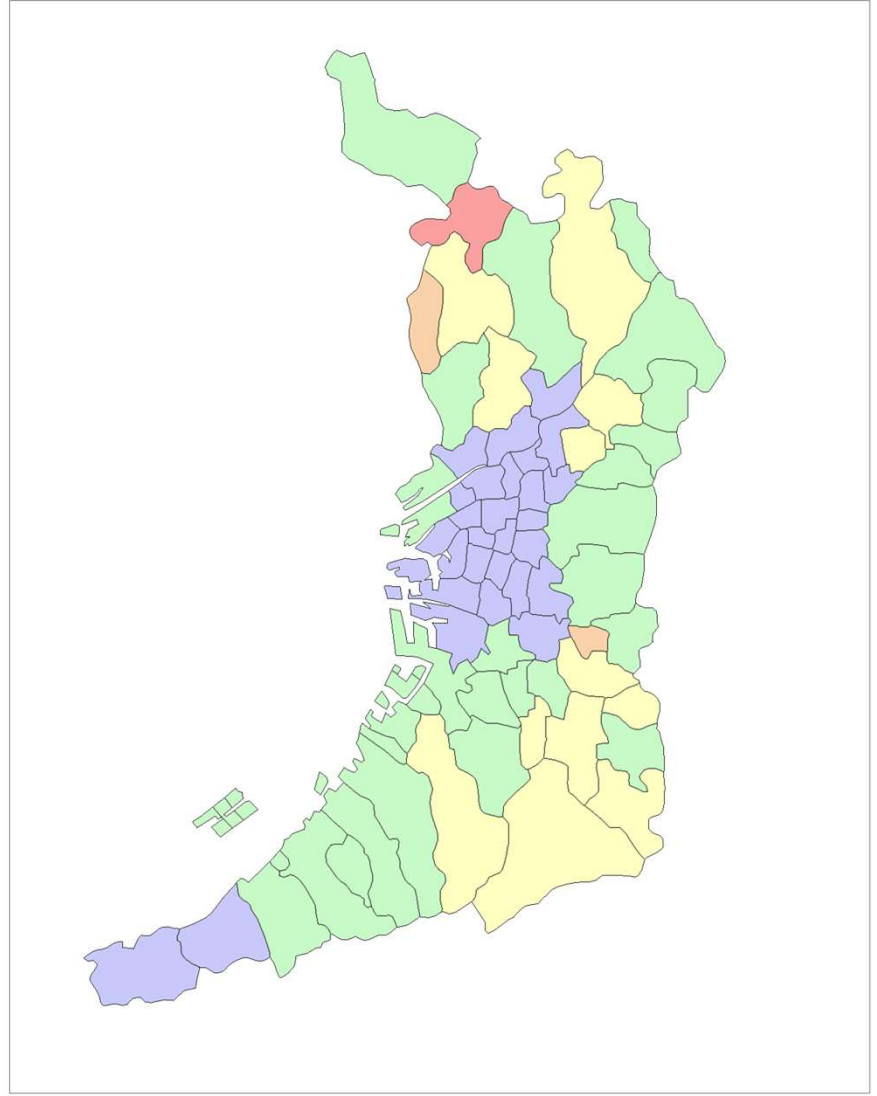
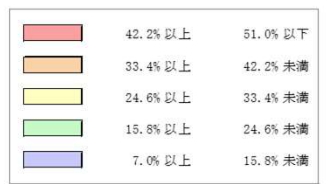
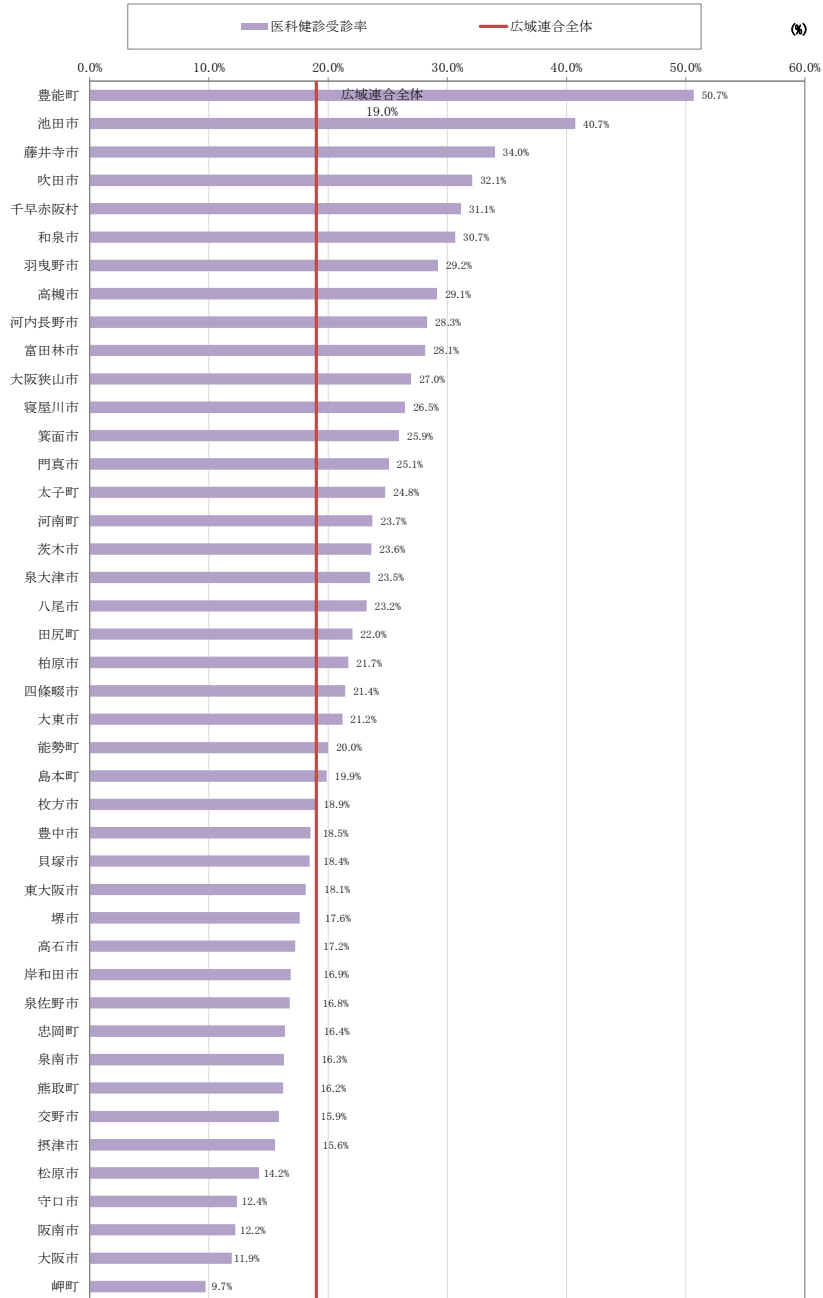
順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	豊能医療圏	1.57%	1.59%	↘1.40%
2位	三島医療圏	1.49%	1.54%	↘1.34%
3位	南河内医療圏	1.28%	1.31%	↘1.26%
4位	北河内医療圏	1.47%	1.44%	↘1.20%
5位	中河内医療圏	1.17%	1.24%	↘1.06%
6位	堺市医療圏	1.16%	1.12%	↘1.06%
7位	泉州医療圏	1.06%	1.09%	↘0.96%
8位	大阪市医療圏	0.68%	0.72%	↘0.60%
	広域連合全体	1.14%	1.17%	↘1.02%

治療中断者割合

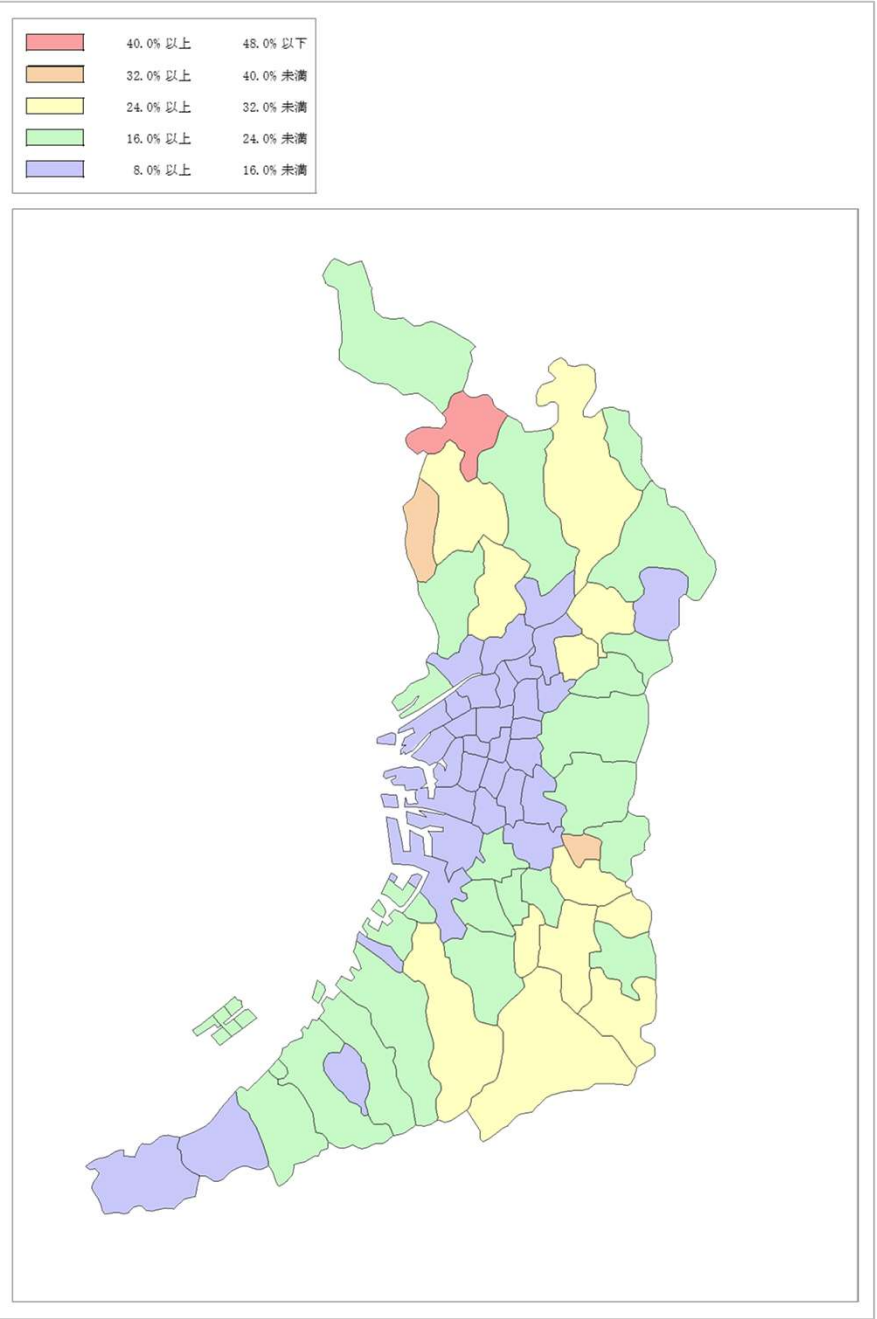
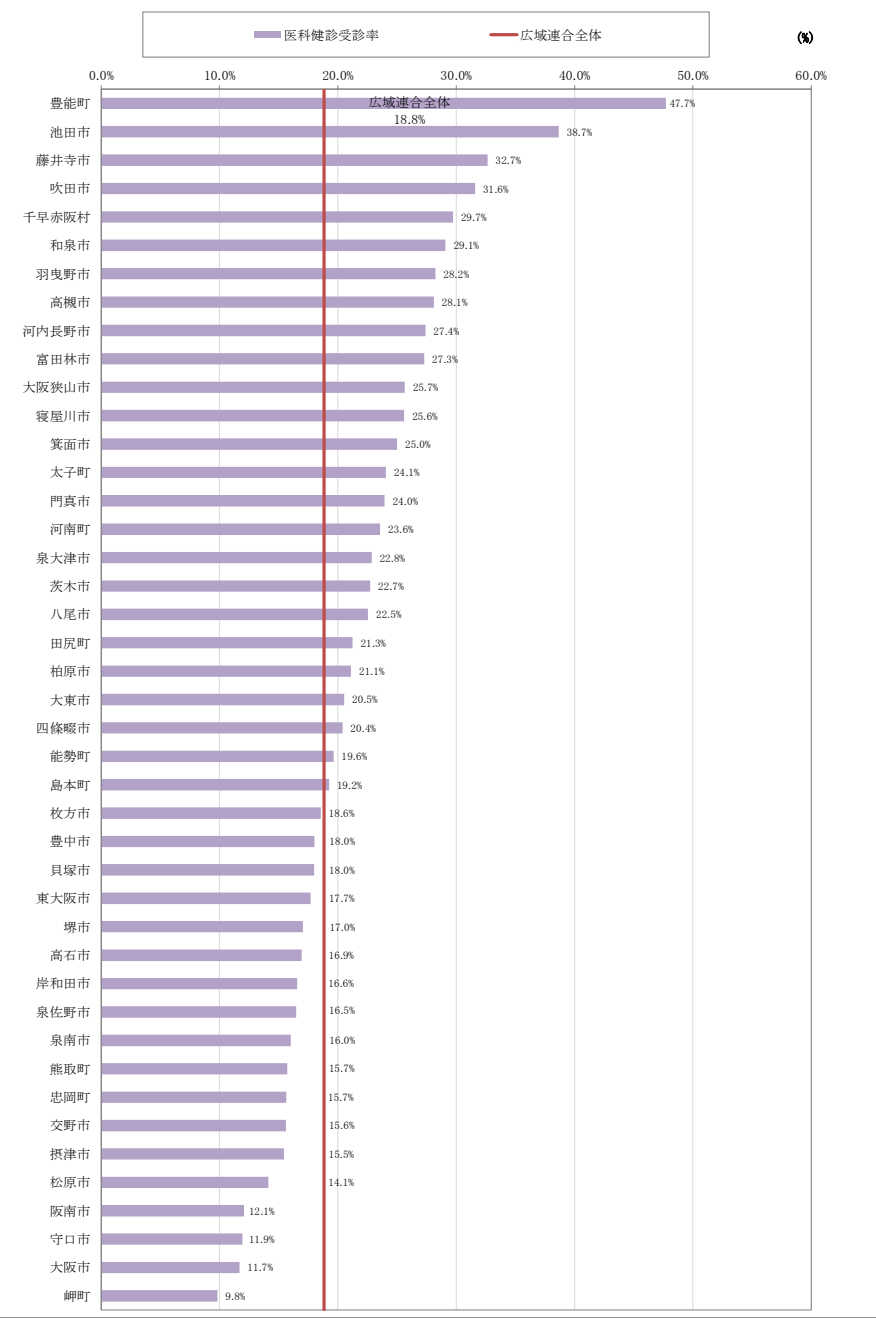
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	0.58%	堺市医療圏	0.67%	大阪市医療圏	↘0.56%
2位	堺市医療圏	0.52%	大阪市医療圏	0.62%	豊能医療圏	↘0.52%
3位	中河内医療圏	0.52%	北河内医療圏	0.58%	北河内医療圏	↘0.51%
4位	泉州医療圏	0.50%	泉州医療圏	0.55%	堺市医療圏	↘0.51%
5位	豊能医療圏	0.50%	豊能医療圏	0.55%	中河内医療圏	↘0.50%
6位	北河内医療圏	0.48%	中河内医療圏	0.55%	泉州医療圏	↘0.48%
7位	三島医療圏	0.45%	南河内医療圏	0.53%	三島医療圏	↘0.48%
8位	南河内医療圏	0.45%	三島医療圏	0.51%	南河内医療圏	↘0.41%
	広域連合全体	0.52%	広域連合全体	0.58%	広域連合全体	↘0.51%

※値の左側の矢印は、  
前年度と比較しての増減を表す

市町村別概要\_医科健診受診率（令和2年度通年有資格者）



市町村別概要\_医科健診受診率（令和3年3月31日時点有資格者）



## Ⅱ.課題把握

### 8. 歯科健診分析

- ① 歯科健診受診率  
歯科健診受診率は11.1%（前年度は13.4%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で14.5%（前年度も三島医療圏で17.0%）、最も低いのは堺市医療圏で7.3%（前年度も堺市医療圏で8.7%）である。
- ② EAT10 3点以上該当者割合  
EAT10 3点以上該当者割合は9.8%（前年度は10.0%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で10.7%（前年度は大阪市医療圏で10.4%。豊能医療圏の前年度は10.3%）、最も低いのは中河内医療圏で8.7%（前年度も中河内医療圏で9.2%）である。
- ③ EAT10 3点以上該当者の高齢者の疾病患者割合  
EAT10 3点以上該当者の高齢者の疾病患者割合は85.2%（前年度は86.5%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で88.6%（前年度も大阪市医療圏で89.5%）、最も低いのは北河内医療圏で83.3%（前年度は泉州医療圏で84.5%。北河内医療圏の前年度は86.0%）である。

歯科健診受診率

順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	三島医療圏	19.9%	17.0%	↘14.5%
2位	中河内医療圏	18.8%	16.5%	↘13.6%
3位	豊能医療圏	18.0%	15.5%	↘12.6%
4位	南河内医療圏	16.5%	14.1%	↘11.8%
5位	泉州医療圏	16.0%	14.0%	↘11.7%
6位	大阪市医療圏	13.9%	12.2%	↘10.1%
7位	北河内医療圏	13.8%	11.7%	↘9.8%
8位	堺市医療圏	9.8%	8.7%	↘7.3%
	広域連合全体	15.4%	13.4%	↘11.1%

EAT10 3点以上該当者割合						
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	11.1%	大阪市医療圏	10.4%	豊能医療圏	↗10.7%
2位	泉州医療圏	10.8%	豊能医療圏	10.3%	三島医療圏	→10.3%
3位	南河内医療圏	10.7%	堺市医療圏	10.1%	北河内医療圏	→10.1%
4位	中河内医療圏	10.6%	南河内医療圏	10.1%	泉州医療圏	↘9.9%
5位	豊能医療圏	10.4%	三島医療圏	9.9%	大阪市医療圏	↘9.6%
6位	堺市医療圏	10.4%	北河内医療圏	9.8%	堺市医療圏	↘9.6%
7位	北河内医療圏	10.2%	泉州医療圏	9.7%	南河内医療圏	↘9.5%
8位	三島医療圏	10.2%	中河内医療圏	9.2%	中河内医療圏	↘8.7%
	広域連合全体	10.6%	広域連合全体	10.0%	広域連合全体	↘9.8%

EAT10 3点以上該当者の高齢者の疾病患者割合						
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	88.6%	大阪市医療圏	89.5%	大阪市医療圏	↘88.6%
2位	堺市医療圏	86.6%	南河内医療圏	86.1%	堺市医療圏	↘85.7%
3位	三島医療圏	86.5%	北河内医療圏	86.0%	中河内医療圏	↘84.7%
4位	豊能医療圏	86.2%	堺市医療圏	86.0%	三島医療圏	↘84.7%
5位	中河内医療圏	85.3%	中河内医療圏	85.3%	南河内医療圏	↘84.7%
6位	北河内医療圏	85.2%	豊能医療圏	85.3%	豊能医療圏	↘83.6%
7位	泉州医療圏	85.1%	三島医療圏	84.9%	泉州医療圏	↘83.3%
8位	南河内医療圏	84.5%	泉州医療圏	84.5%	北河内医療圏	↘83.3%
	広域連合全体	86.4%	広域連合全体	86.5%	広域連合全体	↘85.2%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

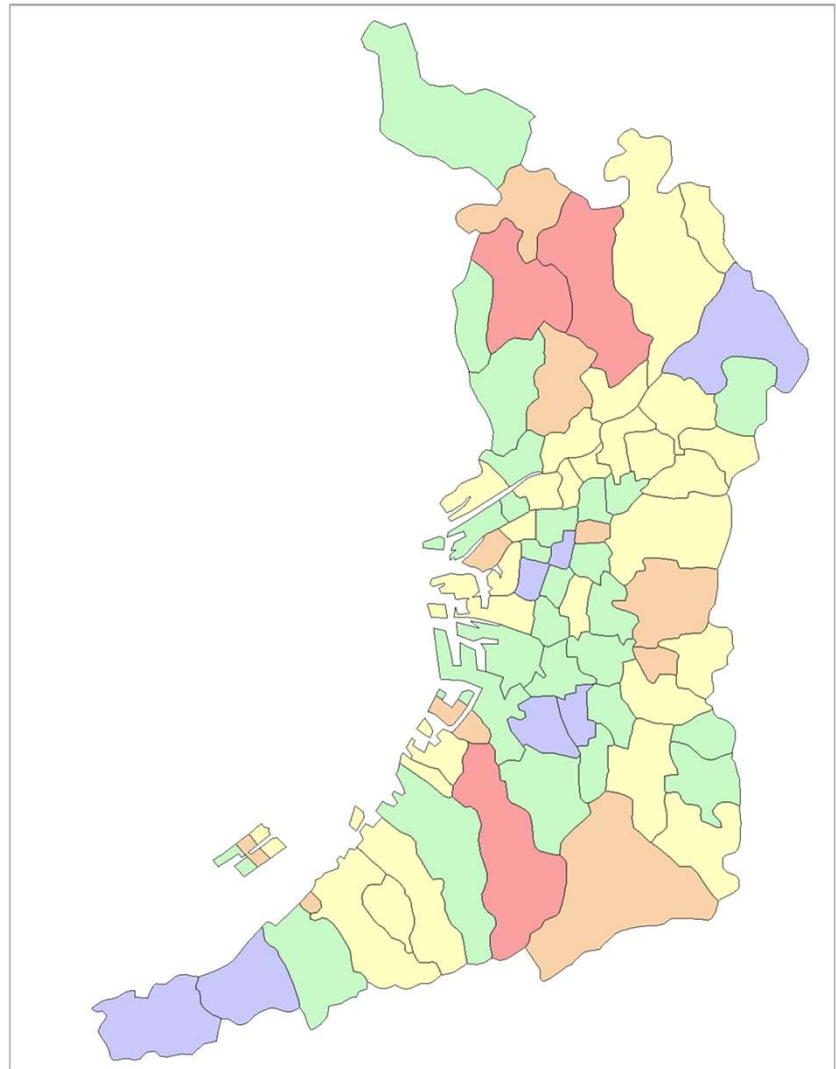
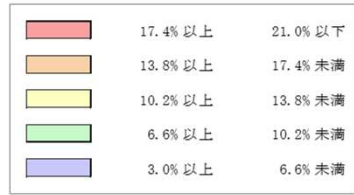
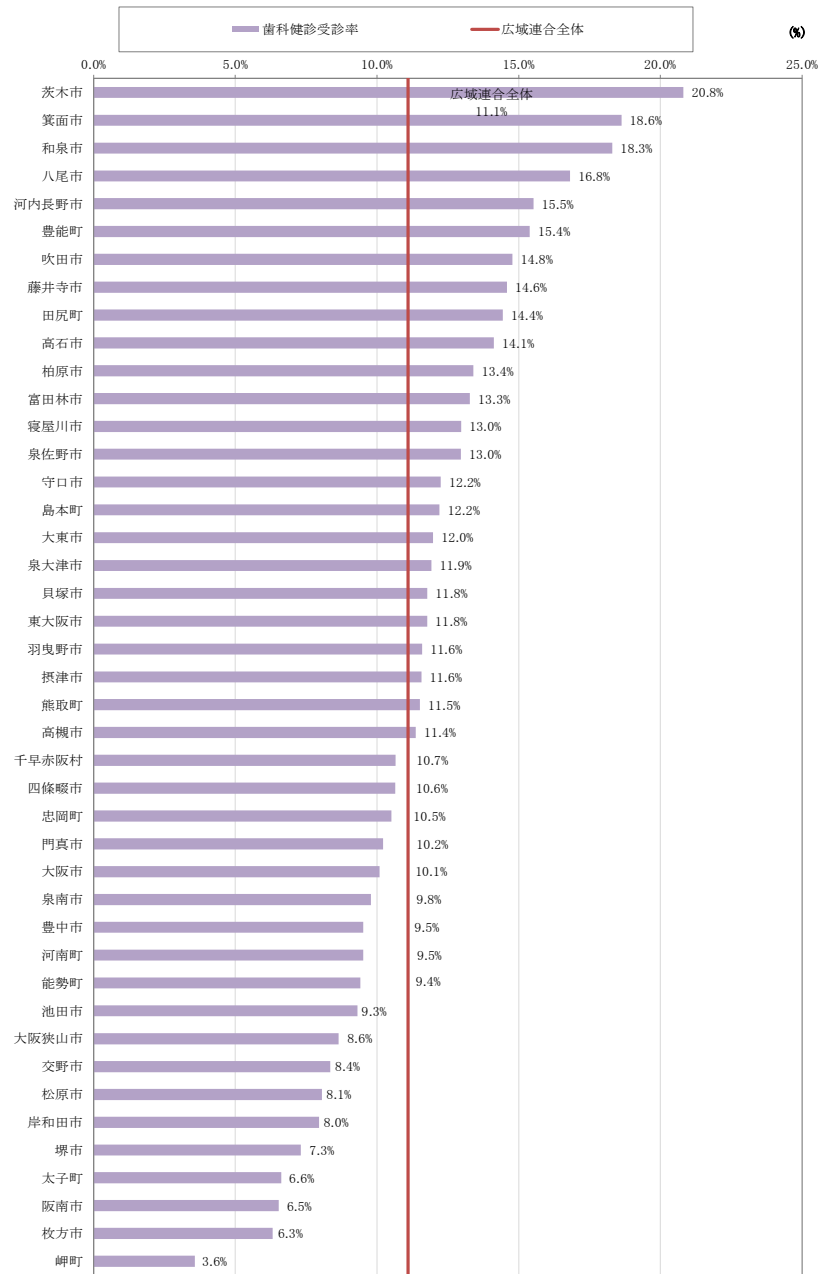
## Ⅱ.課題把握

EAT10 3点以上該当者の 高齢者の疾病患者割合					疾病状況（総患者数に占める割合）						
順位 (R2)	地区	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	順位	疾病名	平成30年度	疾病名	令和元年度	疾病名	令和2年度
1位	大阪市医療圏	88.6%	89.5%	88.6%	1位	骨粗鬆症	49.3%	骨粗鬆症	50.5%	骨粗鬆症	48.6%
					2位	変形性脊椎症	44.0%	変形性脊椎症	44.0%	変形性脊椎症	44.2%
					3位	虚血性心疾患	35.9%	虚血性心疾患	36.2%	変形性膝関節症	35.3%
2位	堺市医療圏	86.6%	86.0%	85.7%	1位	骨粗鬆症	43.2%	変形性脊椎症	37.4%	骨粗鬆症	42.0%
					2位	変形性脊椎症	39.5%	骨粗鬆症	36.3%	変形性脊椎症	39.0%
					3位	虚血性心疾患	32.0%	虚血性心疾患	29.9%	虚血性心疾患	29.9%
3位	中河内医療圏	85.3%	85.3%	84.7%	1位	骨粗鬆症	42.7%	変形性脊椎症	39.7%	変形性脊椎症	39.5%
					2位	変形性脊椎症	40.2%	骨粗鬆症	38.0%	骨粗鬆症	37.7%
					3位	変形性膝関節症	32.6%	虚血性心疾患	32.4%	虚血性心疾患	30.8%
4位	三島医療圏	86.5%	84.9%	84.7%	1位	変形性脊椎症	40.1%	骨粗鬆症	41.7%	変形性脊椎症	38.1%
					2位	骨粗鬆症	37.7%	変形性脊椎症	38.2%	骨粗鬆症	37.1%
					3位	虚血性心疾患	33.5%	虚血性心疾患	31.3%	虚血性心疾患	29.7%

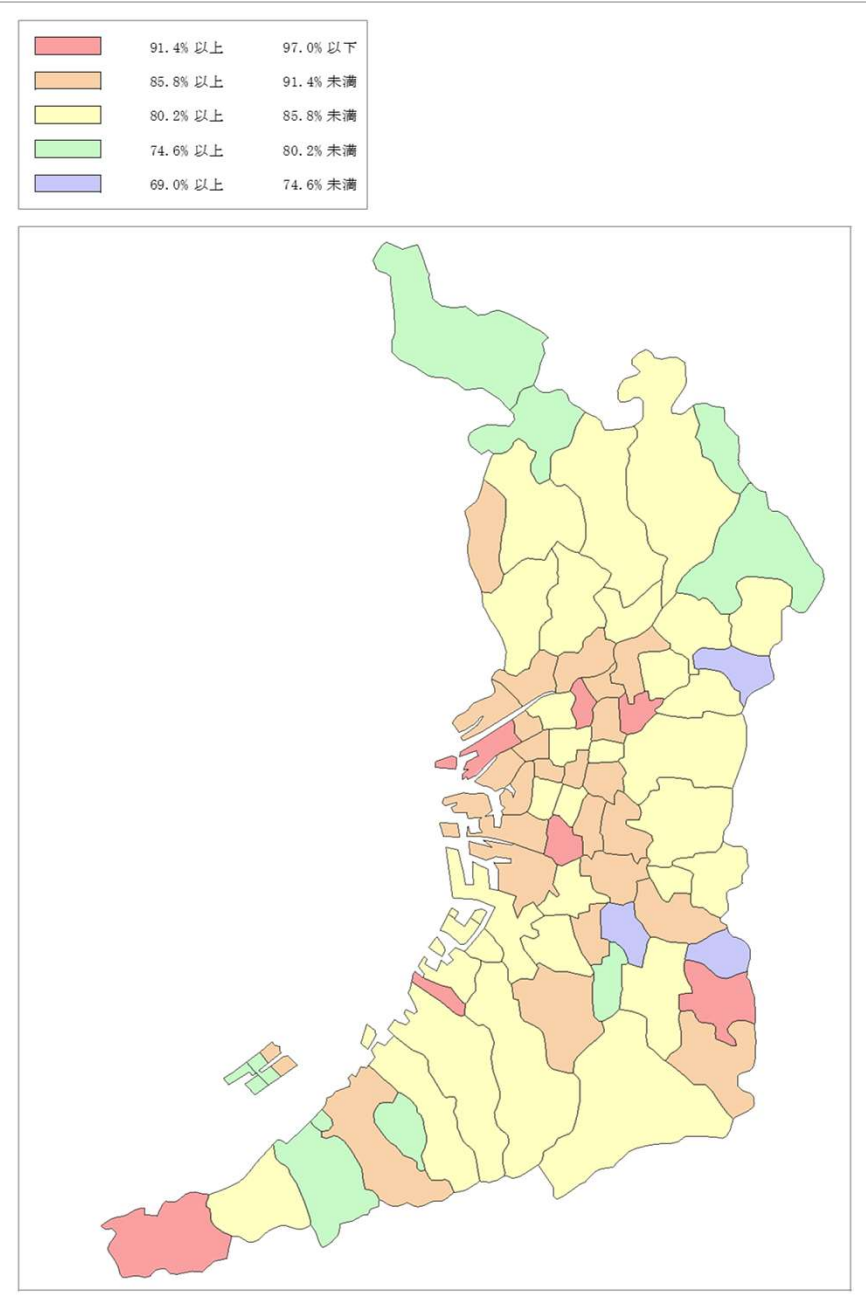
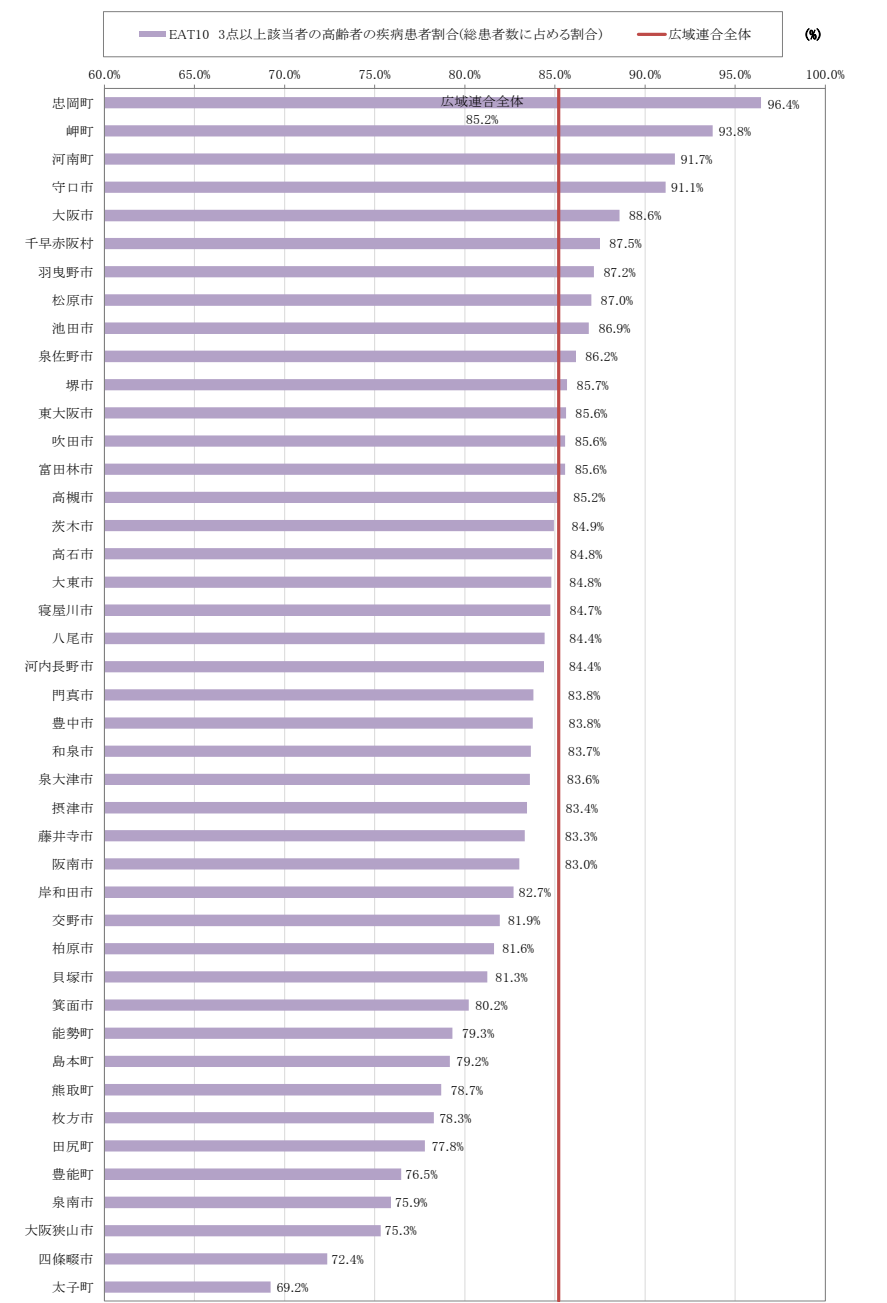


EAT10 3点以上該当者の 高齢者の疾病患者割合					疾病状況（総患者数に占める割合）						
順位 (R2)	地区	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	順位	疾病名	平成30年度	疾病名	令和元年度	疾病名	令和2年度
5位	南河内医療圏	84.5%	85.3%	84.7%	1位	変形性脊椎症	39.8%	骨粗鬆症	41.5%	骨粗鬆症	39.9%
					2位	骨粗鬆症	39.2%	変形性脊椎症	39.9%	変形性脊椎症	37.9%
					3位	虚血性心疾患	31.4%	変形性膝関節症	32.6%	変形性膝関節症	29.5%
6位	豊能医療圏	86.2%	85.3%	83.6%	1位	骨粗鬆症	42.4%	骨粗鬆症	42.9%	骨粗鬆症	41.1%
					2位	変形性脊椎症	39.3%	変形性脊椎症	39.7%	変形性脊椎症	38.4%
					3位	虚血性心疾患	32.4%	変形性膝関節症	32.5%	変形性膝関節症	29.3%
7位	泉州医療圏	85.1%	84.9%	83.3%	1位	骨粗鬆症	39.7%	変形性脊椎症	40.4%	骨粗鬆症	36.6%
					2位	変形性脊椎症	39.3%	骨粗鬆症	37.9%	変形性脊椎症	36.3%
					3位	虚血性心疾患	32.4%	虚血性心疾患	31.6%	虚血性心疾患	29.6%
8位	北河内医療圏	85.2%	84.5%	83.3%	1位	変形性脊椎症	42.6%	骨粗鬆症	38.4%	変形性脊椎症	40.0%
					2位	骨粗鬆症	37.6%	変形性脊椎症	38.3%	骨粗鬆症	36.3%
					3位	虚血性心疾患	32.3%	虚血性心疾患	31.9%	虚血性心疾患	28.5%
	広域連合全体	86.4%	86.5%	85.2%	1位	骨粗鬆症	42.7%	骨粗鬆症	42.5%	骨粗鬆症	40.9%
					2位	変形性脊椎症	41.2%	変形性脊椎症	40.5%	変形性脊椎症	39.9%
					3位	虚血性心疾患	33.3%	虚血性心疾患	32.7%	虚血性心疾患	30.8%

市町村別概要\_歯科健診分析（歯科健診受診率）



市町村別概要\_歯科健診分析(歯科健診受診率\_EAT10 3点以上該当者割合)



## Ⅱ.課題把握

### 9. 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

- ① 透析患者割合  
透析患者割合は0.91%（前年度は0.92%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で1.03%（前年度同値）、最も低いのは豊能医療圏で0.73%（前年度同値）である。
- ② 透析患者に占める生活習慣病起因の透析患者割合  
透析患者に占める生活習慣病起因の透析患者割合は68.5%（前年度67.5%）である。地区別で最も高いのは中河内医療圏で71.0%（前年度は大阪市医療圏で68.4%。中河内医療圏の前年度は68.1%）、最も低いのは三島医療圏で64.8%（前年度も三島医療圏で65.4%）である。

透析患者割合

順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	大阪市医療圏	1.05%	1.03%	→1.03%
2位	北河内医療圏	1.00%	0.99%	↘0.98%
3位	泉州医療圏	0.94%	0.91%	↘0.90%
4位	堺市医療圏	0.96%	0.93%	↘0.89%
5位	中河内医療圏	0.84%	0.86%	→0.86%
6位	南河内医療圏	0.88%	0.87%	↘0.86%
7位	三島医療圏	0.80%	0.79%	↘0.77%
8位	豊能医療圏	0.72%	0.73%	→0.73%
	広域連合全体	0.93%	0.92%	↘0.91%

透析患者に占める生活習慣病起因の患者割合						
順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	中河内医療圏	67.7%	大阪市医療圏	68.4%	中河内医療圏	↗71.0%
2位	大阪市医療圏	67.7%	中河内医療圏	68.1%	豊能医療圏	↗69.5%
3位	泉州医療圏	67.7%	泉州医療圏	68.1%	北河内医療圏	↗69.4%
4位	北河内医療圏	67.2%	南河内医療圏	68.0%	泉州医療圏	↗68.8%
5位	豊能医療圏	66.5%	豊能医療圏	67.7%	大阪市医療圏	↘68.2%
6位	三島医療圏	65.0%	北河内医療圏	66.4%	堺市医療圏	↗68.1%
7位	堺市医療圏	64.8%	堺市医療圏	66.0%	南河内医療圏	↘67.9%
8位	南河内医療圏	64.6%	三島医療圏	65.4%	三島医療圏	↘64.8%
	広域連合全体	66.8%	広域連合全体	67.5%	広域連合全体	↗68.5%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

堺市医療圏を見ると介護認定率が25.1%と最も高い。医科健診受診率・歯科健診受診率は低く、健診異常値放置者と治療中断者は少なくない。EAT10 3点以上に該当する高齢者に多い疾病を持つ患者割合も高い。介護認定の理由トップの心臓病は全医療圏共通だが、多数の健診未受診者が存在するため、保健指導を必要とする対象者が見過ごされている可能性がある。透析患者も一定数あり、生活習慣病医療費も一人当たりの医療費も高額化している。最終的な介護予防を目指し、適切な健診受診と受療および重症化予防の取組が必要であると考えられる。

ただし、堺市医療圏の治療中断者は令和元年度0.67%と広域連合全体の数値より高かったが、令和2年度は0.51%と広域連合全体と同値まで減少している。これは、新型コロナウイルス感染症の流行により、被保険者の健康意識の変化が影響していると言えるだろうか。

透析患者割合と医科健診受診率を見ると、健診受診率が高いほど透析患者割合は低い傾向がある。また健診受診率は介護認定率にも関連しているようである。健診受診率向上のための案内とともに、集いの場・通いの場におけるセミナーや体験会で直接指導型の受診勧奨や治療中断者へのアプローチなど検討する必要がある。

## Ⅱ.課題把握

### 10. 高齢者の疾病傾向

- ① 高齢者の疾病医療費割合  
高齢者の疾病医療費割合は21.6%（前年度21.9%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で23.4%（前年度も泉州医療圏で23.6%）、最も低いのは南河内医療圏で20.0%（前年度も南河内医療圏で20.5%）である。
- ② 高齢者の疾病患者割合  
高齢者の疾病患者割合は79.2%（前年度79.9%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏82.1%（前年度も大阪市医療圏で82.7%）、最も低いのは北河内医療圏で77.6%（前年度も北河内医療圏で78.3%）である。
- ③ 高齢者の疾病患者一人当たりの医療費  
高齢者の疾病患者一人当たりの医療費は247,296円（前年度253,731円）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で283,453円（前年度も泉州医療圏で289,178円）、最も低いのは南河内医療圏で219,356円（前年度も南河内医療圏で228,357円）である。

医療費割合(総医療費に占める割合)

順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	泉州医療圏	24.0%	23.6%	↘23.4%
2位	堺市医療圏	24.0%	23.1%	↗23.3%
3位	大阪市医療圏	22.3%	21.8%	↘21.5%
4位	三島医療圏	22.8%	22.1%	↘21.4%
5位	豊能医療圏	22.0%	21.7%	↘21.2%
6位	中河内医療圏	21.6%	21.0%	→21.0%
7位	北河内医療圏	21.3%	20.9%	↘20.7%
8位	南河内医療圏	20.9%	20.5%	↘20.0%
	広域連合全体	22.4%	21.9%	↘21.6%

患者割合(総患者数に占める割合)

順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	大阪市医療圏	82.7%	82.7%	↘82.1%
2位	堺市医療圏	79.7%	79.7%	↘79.1%
3位	中河内医療圏	78.9%	79.0%	↘78.5%
4位	泉州医療圏	78.9%	78.9%	↘78.3%
5位	三島医療圏	78.7%	78.7%	↘78.0%
6位	豊能医療圏	78.7%	78.7%	↘77.9%
7位	南河内医療圏	78.5%	78.5%	↘77.8%
8位	北河内医療圏	78.2%	78.3%	↘77.6%
	広域連合全体	79.9%	79.9%	↘79.2%

患者一人当たりの高齢者の疾病医療費(円)

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	泉州医療圏	285,214	泉州医療圏	289,178	泉州医療圏	↘283,453
2位	堺市医療圏	279,362	堺市医療圏	273,560	堺市医療圏	↘272,759
3位	三島医療圏	260,762	大阪市医療圏	260,977	大阪市医療圏	↘252,311
4位	大阪市医療圏	259,691	三島医療圏	256,960	三島医療圏	↘244,697
5位	豊能医療圏	243,239	豊能医療圏	243,539	豊能医療圏	↘236,757
6位	中河内医療圏	231,381	中河内医療圏	232,061	中河内医療圏	↘230,791
7位	北河内医療圏	229,890	北河内医療圏	234,517	北河内医療圏	↘230,007
8位	南河内医療圏	227,149	南河内医療圏	228,357	南河内医療圏	↘219,356
	広域連合全体	253,077	広域連合全体	253,731	広域連合全体	↘247,296

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

高齢者の疾病における分析では、総医療費に占める割合と患者一人当たりの医療費が高いのは、泉州医療圏と堺市医療圏で堺市医療圏は介護認定率も高い。堺市医療圏の内科健診受診率・歯科健診受診率が低く、生活習慣病治療中断者も少なくないことから、高齢者の疾病が多いことも介護認定率の高さに関連しているようである。適切な健診受診と受療および重症化予防の取組が必要である。

また6ページ記載の一人当たりの医療費と同様、高齢者の疾病医療費割合・疾病患者割合・疾病患者一人当たりの医療費いずれも減少しているが、これも新型コロナウイルス感染症の影響と言えるだろうか。

## 11. フレイル（医科）

- ① 医科健診3項目以上該当割合  
医科健診3項目以上該当割合は10.3%である。地区別で最も高いのは中河内医療圏で10.9%、最も低いのは三島医療圏で9.4%である。
- ② 医科健診3項目以上該当者 高齢者の疾病医療費割合  
高齢者の疾病医療費割合は23.3%である。地区別で最も高いのは堺市医療圏で25.7%、最も低いのは三島医療圏で22.0%である。
- ③ 医科健診3項目以上該当者 患者一人当たりの高齢者の疾病医療費  
患者一人当たりの高齢者の疾病医療費は198,536円である。地区別で最も高いのは堺市医療圏で228,175円、最も低いのは南河内医療圏で172,472円である。

※1.医科健診3項目以上該当者…以下の問診の回答に3項目以上該当する者の人数。  
 ・現在の健康状態…「あなたの現在の健康状態はいかがですか」の質問に「5 よくない」と回答した者。  
 ・体重減少…「6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか」の質問に「1 はい」と回答した者。  
 ・歩行速度…「以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか」の質問に「1 はい」と回答した者。  
 ・転倒…「この1年間に転んだことがありますか」の質問に「1 はい」と回答した者。  
 ・運動習慣…「ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか」の質問に「2 いいえ」と回答した者。

※2. 高齢者の疾病…「フレイル診療ガイド(日本老年医学会 編)」を参考に、脳梗塞、虚血性心疾患、ロコモティブインドローーム原因疾患(※)、尿失禁、低栄養、嚥下障害、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、認知症、うつ病、貧血を選定。  
 一(※)ロコモティブインドローーム原因疾患は「ロコモティブインドローーム診療ガイド2010(日本整形外科学会 編)」に基づき、変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症、骨折、サルコペニアを選定。

医科健診3項目以上該当割合		
順位	地区	令和2年度
1位	中河内医療圏	10.9%
2位	泉州医療圏	10.6%
3位	大阪市医療圏	10.5%
4位	南河内医療圏	10.5%
5位	豊能医療圏	10.4%
6位	堺市医療圏	10.1%
7位	北河内医療圏	9.7%
8位	三島医療圏	9.4%
	広域連合	10.3%

医科健診3項目以上該当者 高齢者の疾病医療費割合		
順位	地区	令和2年度
1位	堺市医療圏	25.7%
2位	泉州医療圏	24.5%
3位	大阪市医療圏	23.7%
4位	豊能医療圏	23.4%
5位	中河内医療圏	22.5%
6位	北河内医療圏	22.4%
7位	南河内医療圏	22.1%
8位	三島医療圏	22.0%
	広域連合	23.3%

医科健診3項目以上該当者 患者一人当たりの高齢者の疾病医療費		
順位	地区	令和2年度
1位	堺市医療圏	228,175
2位	大阪市医療圏	207,576
3位	泉州医療圏	205,843
4位	三島医療圏	201,015
5位	豊能医療圏	195,546
6位	北河内医療圏	191,115
7位	中河内医療圏	191,015
8位	南河内医療圏	172,472
	広域連合	198,536



## 11. フレイル（歯科）

修正ページ

- ① 歯科健診3項目以上該当割合  
 医科健診3項目以上該当割合は5.3%である。地区別で最も高いのは中河内医療圏で6.0%、最も低いのは北河内医療圏で4.5%である。
- ② 歯科健診3項目以上該当者 高齢者の疾病医療費割合  
 高齢者の疾病医療費割合は22.2%である。地区別で最も高いのは三島医療圏で28.0%、最も低いのは南河内医療圏で17.2%である。
- ③ 歯科健診3項目以上該当者 患者一人当たりの高齢者の疾病医療費  
 患者一人当たりの高齢者の疾病医療費は232,858円である。地区別で最も高いのは三島医療圏で366,596円、最も低いのは南河内医療圏で162,970円である。

※1. 歯科健診3項目以上該当者…以下の問診の回答に3項目以上該当する者の人数。

- ・現在歯…20本未満
- ・咀嚼能力評価…要注意
- ・咬合の状態…要注意
- ・舌・口唇機能評価…要注意
- ・舌苔…中程度・多量
- ・EAT-10…EAT-10の質問項目全てに値があり、合計3点以上
- ・口腔乾燥…中等度・重度

※2. 高齢者の疾病…「フレイル診療ガイド(日本老年医学会 編)」を参考に、脳梗塞、虚血性心疾患、ロコモティブインドラム原因疾患(※)、尿失禁、低栄養、嚥下障害、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、認知症、うつ病、貧血を選定。

一(※)ロコモティブインドラム原因疾患は「ロコモティブインドラム診療ガイド2010(日本整形外科学会 編)」に基づき、変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症、骨折、サルコペニアを選定。

歯科健診3項目以上該当割合		
順位	地区	令和2年度
1位	中河内医療圏	6.0%
2位	大阪市医療圏	5.9%
3位	堺市医療圏	5.5%
4位	泉州医療圏	5.4%
5位	南河内医療圏	5.2%
6位	三島医療圏	4.8%
7位	豊能医療圏	4.5%
8位	北河内医療圏	4.5%
	広域連合	5.3%

歯科健診3項目以上該当者 高齢者の疾病医療費割合		
順位	地区	令和2年度
1位	三島医療圏	28.0%
2位	豊能医療圏	24.6%
3位	北河内医療圏	23.7%
4位	堺市医療圏	23.6%
5位	大阪市医療圏	21.8%
6位	泉州医療圏	19.6%
7位	中河内医療圏	18.1%
8位	南河内医療圏	17.2%
	広域連合	22.2%

歯科健診3項目以上該当者 患者一人当たりの高齢者の疾病医療費		
順位	地区	令和2年度
1位	三島医療圏	366,596
2位	北河内医療圏	263,899
3位	豊能医療圏	241,234
4位	大阪市医療圏	238,163
5位	堺市医療圏	221,912
6位	泉州医療圏	189,200
7位	中河内医療圏	170,130
8位	南河内医療圏	162,970
	広域連合	232,858

## Ⅱ.課題把握

### 12. 受診行動適正化

- ① 重複受診者割合  
重複受診者割合は2.56%（前年度2.88%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で3.00%（前年度も大阪市医療圏で3.45%）、最も低いのは北河内医療圏で2.06%（前年度も北河内医療圏で2.32%）である。
- ② 頻回受診者割合  
頻回受診者割合は2.43%（前年度2.81%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で3.54%（前年度も大阪市医療圏で4.12%）、最も低いのは泉州医療圏で1.67%（前年度は南河内医療圏で1.85%。泉州医療圏の前年度は2.04%）である。
- ③ 重複服薬患者割合  
重複服薬患者割合は5.93%（前年度5.86%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で6.15%前年度も豊能医療圏で6.12%）、最も低いのは泉州医療圏で5.75%（前年度は北河内医療圏で5.56%。泉州医療圏の前年度は5.72%）である。

重複受診患者割合（総患者数に占める割合）

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	3.44%	大阪市医療圏	3.45%	大阪市医療圏	↘3.00%
2位	豊能医療圏	3.13%	豊能医療圏	3.01%	豊能医療圏	↘2.72%
3位	堺市医療圏	2.84%	泉州医療圏	2.78%	堺市医療圏	↘2.60%
4位	泉州医療圏	2.76%	中河内医療圏	2.76%	中河内医療圏	↘2.49%
5位	中河内医療圏	2.75%	堺市医療圏	2.74%	泉州医療圏	↘2.38%
6位	三島医療圏	2.69%	三島医療圏	2.62%	三島医療圏	↘2.32%
7位	南河内医療圏	2.47%	南河内医療圏	2.46%	南河内医療圏	↘2.18%
8位	北河内医療圏	2.36%	北河内医療圏	2.32%	北河内医療圏	↘2.06%
	広域連合	2.91%	広域連合	2.88%	広域連合	↘2.56%

頻回受診患者割合（総患者数に占める割合）

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	4.54%	大阪市医療圏	4.12%	大阪市医療圏	↘3.54%
2位	中河内医療圏	3.28%	中河内医療圏	3.12%	中河内医療圏	↘2.78%
3位	北河内医療圏	2.62%	北河内医療圏	2.43%	北河内医療圏	↘2.16%
4位	堺市医療圏	2.49%	三島医療圏	2.19%	三島医療圏	↘1.97%
5位	三島医療圏	2.35%	堺市医療圏	2.32%	堺市医療圏	↘1.93%
6位	豊能医療圏	2.34%	豊能医療圏	2.10%	豊能医療圏	↘1.85%
7位	泉州医療圏	2.20%	泉州医療圏	2.04%	南河内医療圏	↘1.69%
8位	南河内医療圏	2.06%	南河内医療圏	1.85%	泉州医療圏	↘1.67%
	広域連合	3.06%	広域連合	2.81%	広域連合	↘2.43%

重複服薬患者割合（総患者数に占める割合）

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	豊能医療圏	5.45%	豊能医療圏	6.12%	豊能医療圏	↗6.15%
2位	大阪市医療圏	5.23%	中河内医療圏	5.77%	中河内医療圏	↗5.99%
3位	北河内医療圏	5.16%	大阪市医療圏	5.99%	大阪市医療圏	↘5.94%
4位	中河内医療圏	5.06%	堺市医療圏	5.76%	堺市医療圏	↗5.90%
5位	堺市医療圏	5.05%	三島医療圏	5.94%	三島医療圏	↘5.90%
6位	南河内医療圏	5.03%	南河内医療圏	5.91%	南河内医療圏	↘5.87%
7位	三島医療圏	5.00%	泉州医療圏	5.72%	北河内医療圏	↗5.86%
8位	泉州医療圏	4.98%	北河内医療圏	5.56%	泉州医療圏	↗5.75%
	広域連合	5.15%	広域連合	5.86%	広域連合	↗5.93%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

## Ⅱ.課題把握

### 13. ジェネリック医薬品普及率分析（医科・調剤）

- ① ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)  
ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)は47.7%（前年度44.2%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で51.4%（前年度も三島医療圏で47.4%）、最も低いのは泉州医療圏で45.7%（前年度は南河内医療圏で42.7%。泉州医療圏の前年度は43.1%）である。
- ② ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)  
ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)は74.9%（前年度73.3%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で78.5%（前年度も三島医療圏76.9%）、最も低いのは中河内医療圏で73.3%（前年度は南河内医療圏で71.2%。中河内医療圏の前年度は72.1%）である。

ジェネリック普及率【医科・調剤\_金額ベース】  
(3月時点・直近1カ月)

順位	地区	平成31年3月	令和2年3月	令和3年3月
1位	三島医療圏	47.6%	47.4%	↗51.4%
2位	北河内医療圏	45.8%	45.1%	↗49.0%
3位	大阪市医療圏	43.9%	44.2%	↗48.1%
4位	堺市医療圏	45.3%	45.1%	↗48.0%
5位	豊能医療圏	43.0%	43.6%	↗46.8%
6位	南河内医療圏	41.8%	42.7%	↗46.1%
7位	中河内医療圏	42.1%	42.7%	↗46.0%
8位	泉州医療圏	42.8%	43.1%	↗45.7%
	広域連合全体	44.0%	44.2%	↗47.7%

ジェネリック普及率【医科・調剤\_数量ベース】  
(3月時点・直近1カ月)

順位	地区	平成31年3月	令和2年3月	令和3年3月
1位	三島医療圏	73.8%	76.9%	↗78.5%
2位	北河内医療圏	71.8%	74.8%	↗76.3%
3位	堺市医療圏	70.9%	73.8%	↗75.2%
4位	大阪市医療圏	70.3%	73.3%	↗75.0%
5位	南河内医療圏	68.2%	71.2%	↗73.8%
6位	泉州医療圏	69.4%	72.1%	↗73.6%
7位	豊能医療圏	68.4%	71.9%	↗73.5%
8位	中河内医療圏	69.0%	72.1%	↗73.3%
	広域連合全体	70.2%	73.3%	↗74.9%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

ジェネリック医薬品普及率のうち、歯科の分析は令和2年度事業では行っていないため、3年分比較が不可能であり、次項より2年分比較のみ掲載。

## Ⅱ.課題把握

### 13. ジェネリック医薬品普及率分析（歯科）

- ① ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)  
ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)は48.0%（前年度46.9%）である。地区別で最も高いのは泉州医療圏で53.7%（前年度は三島医療圏で50.9%。泉州医療圏の前年度は49.4%）、最も低いのは南河内医療圏で40.1%（前年度も南河内医療圏で41.9%）である。
- ② ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)  
ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)は51.9%（前年度51.4%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で59.0%（前年度も豊能医療圏57.0%）、最も低いのは泉州医療圏で45.0%（前年度も泉州医療圏で46.5%）である。

ジェネリック普及率【歯科_金額ベース】			
順位	地区	令和2年度	令和3年3月
1位	泉州医療圏	49.4%	↗53.7%
2位	三島医療圏	50.9%	↘50.6%
3位	堺市医療圏	48.6%	↗50.3%
4位	中河内医療圏	49.1%	↗50.1%
5位	豊能医療圏	46.9%	↗48.3%
6位	大阪市医療圏	45.5%	↗46.6%
7位	北河内医療圏	45.6%	↗46.3%
8位	南河内医療圏	41.9%	↘40.1%
	広域連合全体	46.9%	↗48.0%

ジェネリック普及率【歯科_数量ベース】			
順位	地区	令和2年度	令和3年3月
1位	豊能医療圏	57.0%	↗59.0%
2位	三島医療圏	54.4%	↗56.0%
3位	堺市医療圏	47.8%	↗53.3%
4位	北河内医療圏	52.0%	↗52.9%
5位	大阪市医療圏	51.8%	→51.8%
6位	中河内医療圏	51.5%	↘48.8%
7位	南河内医療圏	47.4%	↘45.6%
8位	泉州医療圏	46.5%	↘45.0%
	広域連合全体	51.4%	↗51.9%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

### 13. ジェネリック医薬品普及率分析（全体）

- ① ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)  
 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)は47.7%（前年度47.2%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で51.4%（前年度も三島医療圏で51.1%）、最も低いのは泉州医療圏で45.8%（前年度は南河内医療圏で45.0%。前年度の泉州医療圏は45.7%）である。
- ② ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)  
 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)は74.9%（前年度74.2%）である。地区別で最も高いのは三島医療圏で78.4%（前年度も三島医療圏77.8%）、最も低いのは中河内医療圏で73.2%（前年度は南河内医療圏で72.6%。前年度の中河内医療圏は72.7%）である。

ジェネリック普及率【全体_金額ベース】			
順位	地区	令和2年度	令和3年3月
1位	三島医療圏	51.1%	↗51.4%
2位	北河内医療圏	48.3%	↗48.9%
3位	大阪市医療圏	47.4%	↗48.1%
4位	堺市医療圏	48.0%	→48.0%
5位	豊能医療圏	46.6%	↗46.8%
6位	中河内医療圏	45.4%	↗46.1%
7位	南河内医療圏	45.0%	↗46.1%
8位	泉州医療圏	45.7%	↗45.8%
	広域連合全体	47.2%	↗47.7%

ジェネリック普及率【全体_数量ベース】			
順位	地区	令和2年度	令和3年3月
1位	三島医療圏	77.8%	↗78.4%
2位	北河内医療圏	75.7%	↗76.2%
3位	堺市医療圏	74.6%	↗75.1%
4位	大阪市医療圏	74.3%	↗74.9%
5位	南河内医療圏	72.6%	↗73.8%
6位	泉州医療圏	73.0%	↗73.6%
7位	豊能医療圏	72.9%	↗73.5%
8位	中河内医療圏	72.7%	↗73.2%
	広域連合全体	74.2%	↗74.9%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

ジェネリック医薬品普及率（数量ベース）は令和3年3月時点で74.9%である。内訳を見てみると、内科・調剤は1.6%増加しているが、歯科は0.5%増加に留まっており、全体では0.7%増加であることから、今後は歯科のジェネリック医薬品普及率向上に向けて、検討が必要であると考えます。

またジェネリック医薬品普及率は、国が定める現在のジェネリック医薬品普及率目標80%以上を達成していない。切替え勧奨を行い普及率の向上と医療費の削減を図る必要がある。

## Ⅱ.課題把握

### 14. 薬剤併用禁忌分析・多剤服薬者に係る分析

- ① 薬剤併用禁忌割合  
 薬剤併用禁忌患者割合は2.32%（前年度3.98%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で2.78%（前年度は中河内医療圏で4.60%。大阪市医療圏の前年度は4.59%）、最も低いのは三島医療圏で1.80%（前年度も三島医療圏で3.02%）である。
- ② 多剤服薬者割合  
 被保険者に占める長期多剤服薬者割合は17.5%（前年度16.9%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で18.4%（前年度も豊能医療圏で17.6%）、最も低いのは北河内医療圏で16.6%（前年度も北河内医療圏で16.0%）である。

薬剤併用禁忌割合				
順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	大阪市医療圏	4.67%	4.59%	↘2.78%
2位	中河内医療圏	4.71%	4.60%	↘2.56%
3位	泉州医療圏	4.25%	4.11%	↘2.20%
4位	堺市医療圏	3.63%	3.51%	↘2.19%
5位	北河内医療圏	3.83%	3.70%	↘2.17%
6位	豊能医療圏	3.75%	3.65%	↘2.07%
7位	南河内医療圏	3.47%	3.51%	↘2.00%
8位	三島医療圏	3.25%	3.02%	↘1.80%
	広域連合全体	4.09%	3.98%	↘2.32%



### 多剤服薬者割合

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	豊能医療圏	18.4%	豊能医療圏	17.6%	豊能医療圏	↗18.4%
2位	大阪市医療圏	17.9%	大阪市医療圏	17.2%	大阪市医療圏	↗17.8%
3位	中河内医療圏	17.8%	南河内医療圏	17.3%	南河内医療圏	↗17.7%
4位	泉州医療圏	17.8%	中河内医療圏	16.8%	中河内医療圏	↗17.7%
5位	南河内医療圏	17.7%	泉州医療圏	17.2%	泉州医療圏	↗17.6%
6位	堺市医療圏	17.2%	堺市医療圏	16.4%	堺市医療圏	↗17.2%
7位	三島医療圏	16.7%	三島医療圏	16.0%	三島医療圏	↗16.8%
8位	北河内医療圏	16.7%	北河内医療圏	16.0%	北河内医療圏	↗16.6%
	広域連合全体	17.6%	広域連合全体	16.9%	広域連合全体	↗17.5%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

薬剤併用禁忌割合は前年度に比べて1.66%減少し、薬剤併用禁忌は改善している。特に1位の大阪市医療圏は令和2年度2.78%であるが、これは前年度の最下位である三島医療圏の3.02%よりも低いことから、広域連合全体の薬剤併用禁忌割合が下がっていることは明瞭である。

これも新型コロナウイルス感染症による受診控えが影響していると言えるだろうか。

多受診者（重複受診者・頻回受診者・重複服薬患者）の受診行動適正化と薬剤併用禁忌・多剤服用者の適正化については、すべてのレセプトを保有する広域連合と市町村が主導となり、適正化を進めるべき事業であると考え。特に重複服薬や多剤の状況にある場合、副作用からふらつきや転倒から骨折に至り、要介護状態となる可能性も高くなるので、指導が必要である。

## Ⅱ.課題把握

### 15. 在宅医療に係る分析

- ① 在宅医療患者割合(医科)  
在宅医療患者割合(医科)は11.4%（前年度10.7%）である。地区別で最も高いのは豊能医療圏で12.8%（前年度も豊能医療圏で11.9%）、最も低いのは泉州医療圏で9.8%（前年度も泉州医療圏で9.2%）である。
- ② 在宅医療患者割合(歯科)  
在宅医療患者割合(歯科)は7.1%（前年度7.3%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で7.6%（前年度も大阪市医療圏で7.8%）、最も低いのは泉州医療圏で6.0%（前年度は北河内医療圏で6.3%。前年度の泉州医療圏で6.4%）である。
- ③ 介護の要因となる疾病を持つ患者割合  
介護の要因となる疾病を持つ患者割合は67.3%（前年度68.8%）である。地区別で最も高いのは大阪市医療圏で67.7%（前年度も大阪市医療圏で69.4%）、最も低いのは堺市医療圏で64.7%（前年度も堺市医療圏で66.3%）である。

在宅医療患者割合(医科)

順位	地区	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1位	豊能医療圏	11.5%	11.9%	↗12.8%
2位	大阪市医療圏	10.9%	11.2%	↗11.9%
3位	中河内医療圏	10.6%	10.8%	↗11.7%
4位	堺市医療圏	10.2%	10.3%	↗11.1%
5位	南河内医療圏	10.0%	10.2%	↗10.9%
6位	三島医療圏	9.4%	9.7%	↗10.4%
7位	北河内医療圏	9.2%	9.5%	↗10.2%
8位	泉州医療圏	8.8%	9.2%	↗ 9.8%
	広域連合全体	10.3%	10.7%	↗11.4%

※順位の変動なし

在宅医療患者割合(歯科)

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	豊能医療圏	7.8%	大阪市医療圏	7.8%	大阪市医療圏	↘7.6%
2位	大阪市医療圏	7.6%	豊能医療圏	7.8%	豊能医療圏	↘7.5%
3位	南河内医療圏	7.2%	南河内医療圏	7.2%	南河内医療圏	↘7.1%
4位	中河内医療圏	6.9%	中河内医療圏	7.2%	中河内医療圏	↘7.0%
5位	堺市医療圏	6.8%	堺市医療圏	6.9%	堺市医療圏	→6.9%
6位	三島医療圏	6.6%	三島医療圏	6.7%	三島医療圏	→6.7%
7位	泉州医療圏	6.4%	泉州医療圏	6.4%	北河内医療圏	↘6.2%
8位	北河内医療圏	6.2%	北河内医療圏	6.3%	泉州医療圏	↘6.0%
	広域連合全体	7.1%	広域連合全体	7.3%	広域連合全体	↘7.1%

介護の要因となる疾病を持つ患者割合

順位	地区	平成30年度	地区	令和元年度	地区	令和2年度
1位	大阪市医療圏	69.8%	大阪市医療圏	69.4%	大阪市医療圏	↘67.7%
2位	泉州医療圏	68.3%	中河内医療圏	68.2%	中河内医療圏	↘66.7%
3位	中河内医療圏	68.2%	三島医療圏	68.0%	泉州医療圏	↘66.5%
4位	三島医療圏	68.1%	泉州医療圏	67.9%	三島医療圏	↘66.4%
5位	豊能医療圏	67.2%	豊能医療圏	67.0%	北河内医療圏	↘65.3%
6位	北河内医療圏	66.9%	北河内医療圏	66.8%	豊能医療圏	↘65.2%
7位	南河内医療圏	66.9%	南河内医療圏	66.5%	南河内医療圏	↘64.8%
8位	堺市医療圏	66.6%	堺市医療圏	66.3%	堺市医療圏	↘64.7%
	広域連合全体	69.0%	広域連合全体	68.8%	広域連合全体	↘67.3%

※値の左側の矢印は、前年度と比較しての増減を表す

## Ⅱ. 課題把握

# データヘルス計画【総括】 「課題整理と今後の方向性」

### 健康診査の受診率の向上

年度通年有資格者の健康診査受診率を平成30年度から令和2年度で見ると、平成30年度の市区町村の受診率で最も低いところでは9.3%(西区)、最も高いところでは49.0%(豊能町)となっており、受診率の差は39.7%と大きな開きがあります。令和元年度の市区町村の受診率で最も低いところでは9.2%(浪速区)、最も高いところでは51.0%(豊能町)となっており、受診率の差は41.8%と大きな開きがあります。令和2年度の市区町村の受診率で最も低いところでは7.9%(北区)、最も高いところでは50.7%(豊能町)となっており、受診率の差は42.8%と大きな開きがあります。

今後は受診率の低い市区町村の未受診者から優先的に勧奨通知業務等を行い受診率の向上を図り、生活習慣病の早期発見に努めることが必要と考えられます。※令和元年度、令和2年度の受診率は、除外対象者を除いた受診率となっています。

### 歯科健康診査の全域実施

歯科健康診査においては平成29年度までは、一部の市町村においてのみ実施していましたが、平成30年度より大阪府広域連合が主体となり全市町村で実施しています。

歯科健康診査の受診率を見ると、令和2年度の市区町村の受診率で最も低いところでは3.6%(岬町)となっており、令和元年度の市区町村の受診率で最も低いところでは6.7%(岬町)となっているため、被保険者への歯科健康診査の広報活動に努め受診率向上を図ることが必要と考えられます。また、令和元年度の市区町村でEAT10が3点以上に該当した割合は大阪府広域連合全体では10.0%、最も高い市町村では15.2%(能勢町)となっており、令和2年度の市区町村でEAT10が3点以上に該当した割合は大阪府広域連合全体では9.8%、最も高い市町村では16.3%(能勢町)となっています。口腔機能低下を予防し、健康の保持増進を図ることが必要と考えられます。

### 重症化予防

後期高齢者医療に加入してから人工透析になるまでの年月数(平成24年6月～平成29年9月作成分)を見ると、2年以上10年未満では67.1%となっており人工透析患者の半数以上を占めています。また、透析患者のうち、生活習慣病起因の透析患者の割合も令和元年度は67.5%、令和2年度は68.5%と半数以上を占めています。

健康審査の受診結果やレセプト等のデータを分析し、検査や治療が必要な被保険者に受診勧奨や保健指導をすることで生活習慣病の重症化の予防を図るとともに、高血糖や腎機能が低下している被保険者に対して医療機関へ受診を促すことで人工透析への移行を防止することが必要と考えられます。また市町村の国民健康保険制度の保健事業からの継続した取組みを推進することも必要と考えられます。

## ジェネリック医薬品の利用促進

ジェネリック医薬品の使用率については、平成28年度は57.2%でしたが、平成30年度は68.7%、令和元年度は72.3%、令和2年度は74.5%と年々増加しています。

令和2年度(2020年度)中に、80%以上を達成する目標であったため、引き続き被保険者への広報活動とともに、大阪府医師会や大阪府歯科医師会、大阪府薬剤師会への協力依頼などさらなる利用促進を図ることが必要と考えられます。

## 健康づくり対策

「骨・筋骨格系」の疾患を有する被保険者が多いことから、筋力の低下を防いでいくことが重要と考えられます。また、慢性的な持続した痛みを抱えている場合が大きくなるほど、外出を控えるなど心身ともに消極的となります。大阪府の健康寿命が平成28年度において男性70.46歳、女性72.49歳であることから、後期高齢者医療に移行する前の段階から地域に密着した健康づくりの取り組みが必要と考えられます。

また、高齢者は複数の慢性疾患に加え、認知機能や社会的なつながりが低下するといったいわゆるフレイル状態になりやすく、医療機関を受診している被保険者のうち、平成30年度は79.9%、令和元年度も同様に79.9%、令和2年度は79.2%がフレイルに関連する疾病(高齢者の疾病)で医療機関を受診しています。加えて、被保険者のうち、介護の要因となる疾病(認知症、脳血管疾患、関節疾患、骨折、心疾患)をもつ患者割合は平成30年度は69.0%、令和元年度は68.8%、令和2年度67.3%となっています。

このように、高齢者は疾病予防と生活機能維持の両面にわたるニーズを有しているため、一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな保健事業を実施することが必要と考えられます。今後はより一層市町村と連携して、高齢者の保健事業と市町村が実施する介護予防事業等を一体的に推進し、高齢者のフレイル対策や介護予防の強化に取り組むことが必要と考えられます。